

JobCenter

R12.10

<インストールガイド>

-
- Windows 2000, Windows XP, Windows Server 2003, Windows Server 2008 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
 - Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
 - SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
 - HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
 - AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
 - NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
 - その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取り下さい。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談下さい。

はじめに

本書は、JobCenter のインストールやバージョンアップ方法などについて説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ 本書をお読みください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

2. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

		気をつけて読んでいただきたい内容です。
		本文中の補足説明
注		本文中につけた注の説明
—		UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

3. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter インポート・エクスポート機能利用の手引き	ユーザ環境のバックアップや環境の移行の際に必要な、JobCenter上のジョブネットワーク定義、スケジュール定義およびカレンダー定義のインポート・エクスポート機能について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter テンプレートガイド	JobCenterに標準添付されている各種テンプレートの利用方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter UCXSingleジョブ利用ガイド	JobCenterをUCXSingleと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter R12.10 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

4. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2011/08/05	新規作成	－	第1版
2	2011/09/12	追記・修正	－	「 2.1.1 注意事項の事前確認 」に、JobCenterがSELinux非対応であることを追記 内容の誤記を修正
3	2011/10/6	追記	－	「 2.1.1 注意事項の事前確認 」にユーザプロファイル設定の必要性について注意事項を追記、IPv6非対応を追記

目次

はじめに	iii
1. 読み方	iv
2. 凡例	v
3. 関連マニュアル	vi
4. 改版履歴	vii
1. JobCenterの動作環境	1
2. インストール	2
2.1. インストールの準備をする	3
2.1.1. 注意事項の事前確認	3
2.1.2. ネットワークを設定する	9
2.1.3. マシンIDを割り当てる	11
2.2. LicenseManagerをインストールする	12
2.2.1. Solaris(SPARC)版	12
2.2.2. Linux版	14
2.2.3. AIX版	16
2.2.4. Windows版	16
2.3. コードワードを登録する	21
2.3.1. コードワードの登録作業	21
2.3.2. LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ	24
2.4. JobCenter MG/SVをインストールする	26
2.4.1. HP-UX版	26
2.4.2. Solaris版	26
2.4.3. Linux版	27
2.4.4. AIX版	28
2.4.5. Windows版 (通常インストール)	29
2.4.6. Windows版 (サイレントインストール)	42
2.5. JobCenter CL/Winをインストールする	44
2.5.1. 通常インストール	44
2.5.2. サイレントインストール	50
3. 実行環境のセットアップ(UNIX版)	52
3.1. JobCenterのセットアップ	53
3.1.1. nssetup(セットアップ用のコマンド)を実行する	53
3.1.2. JobCenterのマシンIDを設定する	53
3.1.3. JobCenterを使用する言語環境を選択する	54
3.1.4. UMS環境を設定する	55
3.1.5. 管理者ユーザの設定を変更する	56
3.1.6. パスワードを設定する	57
3.1.7. .rhostsファイルを設定する	57
3.2. JobCenterセットアップ後に必要な作業	59
4. アンインストール	61
4.1. LicenseManagerをアンインストールする	62
4.1.1. UNIX版	62
4.1.2. Windows版	63
4.2. JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする	65
4.2.1. UNIX版	65
4.2.2. Windows版	66
4.3. JobCenter CL/Winをアンインストールする	70
4.3.1. パッケージを削除する	70
4.3.2. レジストリ関連のデータを削除する	70
5. バージョンアップ	71
5.1. UNIX版	72
5.1.1. バージョンアップ	72
5.1.2. NQS関連のデータ引き継ぎ	72
5.2. Windows版	74
5.2.1. バージョンアップ	74

5.2.2. NQS関連のデータ引き継ぎ	77
6. バージョンの確認方法	79
6.1. UNIX版	80
6.1.1. JobCenter MG/SV	80
6.2. Windows版	81
6.2.1. JobCenter SV	81
6.2.2. CL/Win	81

図目次

2.1. インストールの流れ	2
2.2. UNIXマネージャモデル	7
2.3. Windowsマネージャモデル	8
2.4. インストール初期画面	17
2.5. インストール先設定画面	18
2.6. 確認画面	18
2.7. 完了画面	19
2.8. プログラムの追加と削除画面例	20
2.9. セットアップ開始画面	33
2.10. インストールタイプの設定	33
2.11. インストール言語の設定画面	34
2.12. インストールフォルダの設定画面	34
2.13. 定義情報の引継ぎダイアログ	35
2.14. プログラムフォルダの設定	35
2.15. JobCenter管理者の設定画面	36
2.16. IPアドレスの設定画面	37
2.17. IPアドレスの確認画面	37
2.18. ポートの設定画面	38
2.19. マシンIDと文字コードの設定画面	39
2.20. 確認画面	40
2.21. インストールの実行画面	40
2.22. セットアップ開始画面	45
2.23. インストール言語の設定	45
2.24. インストールフォルダの設定画面	46
2.25. プログラムフォルダの設定画面	47
2.26. 操作モードの設定画面	47
2.27. ショートカット作成の設定画面	48
2.28. ポートの設定画面	49
2.29. 確認画面	49
2.30. インストール完了画面	50
4.1. パッケージ削除画面	63
4.2. パッケージ削除確認画面	64
4.3. パッケージ削除画面	66
4.4. パッケージ削除画面	70
5.1. アップグレード画面	76
5.2. インストール完了画面	76
5.3. アップグレード時の注意事項表示画面	76
6.1. バージョン情報選択画面	81
6.2. バージョン情報選択画面	82

表目次

2.1. LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Solaris版)	13
2.2. LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Linux版)	14
2.3. LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Windows版)	16
2.4. 登録モードと操作可能範囲	47
2.5. 利用するウィンドウと作成されるショートカット	48
4.1. 削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンドOS別一覧	65
6.1. JobCenterのバージョン確認コマンドOS別一覧	80

第1章 JobCenterの動作環境

JobCenterの動作環境および対応OSにつきましては、<リリースメモ>の3章「動作環境」を参照してください。

第2章 インストール

LicenseManager, JobCenter MG/SVおよびJobCenter CL/Winのインストール方法を説明します。次の手順に従って作業を行ってください。

インストールの準備をする	…	2.1	
LicenseManager をインストールする	…	2.2	
コードワードを登録する	…	2.3	
JobCenter MG/SVをインストールする	…	2.4	} 必要なパッケージだけをインストールします。
JobCenter CL/Winをインストールする	…	2.5	

図2.1 インストールの流れ

2.1. インストールの準備をする

インストールを開始する前に必要な設定を行います。

2.1.1. 注意事項の事前確認

■JobCenterはIPv4のみ対応しています。IPv6には非対応ですのでご注意ください。

■UNIXの場合の注意事項

- JobCenterにおいて“CommonJNW”というユーザ名は使用できません。また、ホスト名と同じユーザ名は使用できません。
- LDAP連携は直接サポートしていません。ただしLDAPサーバのパスワード暗号化方式がcryptで、かつOSのライブラリ関数getpwnam()またはgetpwent()で通常の/etc/passwdによる管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。
- HP-UXのSMSE(Standard Mode Security Extensions)のようにユーザごとにアクセス制御が設定されている環境を直接サポートしていません。ただしJobCenterはgetpwnam()またはgetpwent()で通常の/etc/passwdによる管理と同様にユーザ名にアクセスできるのであれば、区別せず一般のユーザとして扱うことは可能です。

その場合、SMSE環境において提供されるアカウントロック等のセキュリティ機能に対応していませんので、CL/WinでMG/SVにログイン/接続する際のパスワード認証の失敗回数のカウントや、ログイン失敗の記録は行われません。

- インストールディレクトリのパーミッションについては、755のアクセス権が必要になります。従ってインストール時のrootユーザのumaskの値が755のアクセス権をマスクしないようにする必要があります。
- JobCenterのNQS設定でグループに対するキューアクセス制限等を設定する場合は、クラスタサイトを構成する全てのノードで、グループ名とgidも統一する必要があります。
- クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenterを利用する全てのアカウント名とそのuidをOSの機能により統一しておく必要があります。

統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。

- JobCenterインストールディレクトリ配下の各初期化ファイルを、マニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。
- Linux版JobCenterでは、SELinuxには対応しておりません。SELinuxの設定はpermissiveまたはdisabledにしてください。enforcingの場合、ジョブが正常に実行できない可能性があります。

■Windowsの場合の注意事項

- JobCenterで使用するディスク領域は(ローカル・クラスタサイト共)NTFSでフォーマットされている必要があります(FAT32は不可)。

なおNTFSファイルシステムは「8.3 short file name」の自動作成をOFFにしないと1フォルダへの大量ファイル(約1万～)作成時にパフォーマンスが極端に落ちます。

短時間に大量のトラックを生成したり巨大なジョブネットワークを作成して投入する環境では、OSのfsutil behavior コマンドによる無効化(fsutil behavior set disable8dot3 1)が必要になる場合があります。

- JobCenterはマルチプラットフォーム連携製品のため、先頭に数字をもつホスト名は使用できません。また1文字のホスト名はドライブ名として解釈されるのでインストールできません。
- JobCenterにおいて"CommonJNW"というユーザ名は使用できません。また、コンピュータ名と同じユーザ名は使用できません。
- JobCenterで使えるユーザ名の最大長は15バイトです。また、ユーザ名に漢字は使用できません。
- LDAP連携は直接サポートしていません。ただしLDAPサーバのパスワード暗号化方式がcryptで、かつActiveDirectory側でLDAP連携環境が整っていてドメインユーザとして認証できるのであれば、区別せず一般のドメインユーザとして扱うことは可能です。
- JobCenter管理者として指定するアカウントは、事前にローカルマシンのAdministratorsグループに所属している必要があります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトのJobCenter管理者がクラスタサイトのJobCenter管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- ドメイン環境においてJobCenter管理者としてローカルユーザを選択する場合は、JobCenterで利用できる全てのユーザはローカルユーザのみとなります。JobCenter管理者をドメインユーザとした場合はローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。
- ドメイン環境においてJobCenter管理者としてドメインユーザを選択した場合、JobCenterのセットアップ時にローカルサービスが起動する際、またはCL/Winで新規ドメインユーザでMG/SVに接続する際に、最初の1回目はドメインサーバ(PDCまたはBDC)にネットワーク的にアクセスできる状態であることが必要です。もしPDCまたはBDCにアクセスできなかった場合、アカウント認証できないためサービス起動やCL/Win接続に失敗します。
- JobCenterを利用するアカウントはローカルのJobCenterグループに所属することになりますが、同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザや、同じアカウント名綴りのドメインユーザと別ドメインのユーザを、同時にJobCenterグループに所属させることはできません。(いずれか一方のみ利用可能) もし同じアカウント名綴りのローカルユーザとドメインユーザが同時にJobCenterグループに所属した場合、JobCenterが正常に動作しなくなる可能性があります。(複数ドメイン間についても同様)
- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。PDCとメンバサーバ、BDCとメンバサーバの組み合わせはできません。
- ドメイン環境ではDNSが必要となりますが、DNSサーバと通信できなくなった状態ではJobCenterが名前解決できず正しく停止処理を行えなくなりますので、hostsファイル(もしくはJobCenter側に設置するresolv.defファイル)も設定して、名前解決できることを保証しておく必要があります。
- インストールするマシンが参加するネットワークがスパニングツリーで運用されている場合、NICのリンクアップのタイミングが遅くなるため、マシン起動時にJobCenterがライセンスされているIPアドレスを確認できず、自動サービス起動に失敗する場合があります。その場合は<環境構築ガイド>の「5.4 JobCenterの起動時ライセンスチェックについて」に従い、起動時のリトライ設定を調整する必要があります。
- JobCenterの使用するディレクトリがウィルススキャンのオンアクセススキャンの対象になっている場合、ジョブの実行が正常に行えない場合があります。そのため、JobCenterの使用するディレクトリ(インストールディレクトリと<Documents and Settings>ディレクトリ 注)をオンアクセススキャンの対象外にしてください。



<Documents and Settings>ディレクトリ全体ではなく、JobCenterで利用するユーザの以下のパスをオンアクセススキャンの対象外とするように設定範囲を絞ることも可能です。

Documents and Settings\<USER>\NTUSER.DAT

Documents and Settings\<USER>\ntuser.dat.LOG

上記はWindows Server 2003以前の場合の例です。Windows OSごとに実装が異なるため、上記に相当するパス/ファイルを環境ごとに確認した上でスキャン対象からはすすようにしてください。

- その他、ユーザプロファイルへのウィルススキャンとJobCenterのジョブ実行時におけるユーザプロファイル読み込みが競合すると、NQSのキューが停止してジョブ実行が止まる可能性があります。インストール完了後に、必要に応じてユーザプロファイルの読み込みに関する設定を行って下さい。詳細は<環境構築ガイド>の「12.3.3 ジョブの実行設定」を参照してください。



ジョブから実行するユーザーコマンドがユーザプロファイルの読み込みを必要とする場合は、ユーザプロファイルへのウィルススキャン対象外にする等、システム側の対処が必要になる場合があります。

- JobCenterをインストール/運用するためには、ServerサービスおよびWindows Management Instrumentationサービスが起動している必要があります。

[スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、[services.msc] を実行します。

[サービス] ダイアログが表示されますので、ServerサービスとWindows Management Instrumentationサービスの状態が「開始」、スタートアップの種類が「自動」であることを確認してください。(デフォルトでは「開始、自動」の設定になっています。)

- JobCenterをインストール/運用するためには、JobCenterが使用するネットワークのプロパティで「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」のチェックがONになっている必要があります。(デフォルトではONの設定になっています。)
- JobCenterインストールディレクトリやWindowsディレクトリ配下の各初期化ファイル、およびレジストリ情報をマニュアル記述範囲を超えて任意に変更した場合の動作は保証できません。
- 環境変数tempとtmpについて

JobCenterを利用するためには、環境変数tempとtmpが設定されており、かつ設定されたフォルダが実際に存在している必要があります。



特にローカルサイトのJobCenterサービスはシステムアカウントで動作しますので、TEMPとTMPの参照先が下記のとおり設定されていないと、ユーザーアプリケーションのコマンドが正常に動作しない場合があります。

Windows Server 2008を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダを作成してください。

<システムドライブ>\Windows\system32\config\systemprofile\AppData\Local\Temp\

Windows Server 2003を利用している場合は、インストール前に以下のフォルダが存在するか確認し、存在しない場合は作成してください。

<システムドライブ>\Documents and Settings\Default User\Local Settings\Temp\

上記のフォルダの作成が困難である場合は、JobCenterとは関連のない任意の場所にフォルダを作成し、環境変数設定ファイルのenvvarsファイル中でtempおよびtmp環境変数の値として設定してください。

設定例

temp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>
tmp=<テンポラリに使用できる実際に存在するフォルダ>

envvarsファイルの詳細については、<環境構築ガイド>の「14.2.3.2 JobCenter SV側で設定する場合の対処（envvarsファイル）」を参照してください。

■Windowsクラスタ環境の注意事項

- クラスタサイトを構成する全てのノードで、JobCenter管理者は同じユーザ名でセットアップする必要があります。また、本ガイド「Windows版」の「一般的な注意事項」に記載の通り、当該ノードにおいてローカル管理者権限が必要となります。
- ローカルサイトとクラスタサイトを同時に動作させる場合、ローカルサイトのJobCenter管理者がクラスタサイトのJobCenter管理者も兼ねることになりますので、事前に十分検討した上でインストールしてください。
- JobCenter管理者以外のユーザについても、クラスタサイトを構成する全てのノードでユーザ名とuidを統一する必要があります。

統一されていない場合、クラスタパッケージがフェイルオーバーするとユーザマッピングが適合せず、ジョブ実行が継続できなくなる可能性があります。

uidの変更はJobCenterの「サーバの環境設定」で行います。変更方法の詳細はマニュアル<環境構築ガイド>の「12.4.1 ユーザのプロパティ」を参照してください。

- ドメイン環境の場合、クラスタサイトを構成するノードの組み合わせに制限があります。

PDCとメンバサーバ、BDCとメンバサーバの組み合わせはできません。

■UNICODE環境の場合の注意事項

JobCenterをUNICODE環境でセットアップする場合は、以下の点に注意してください。

- 英語OS+英語版JobCenter、または中国語OS+中国語版JobCenterの組み合わせの場合、必ず非UNICODE(Non-Unicode Mode)を選択してください。もしUNICODE(Unicode Mode)を選択してインストールした場合、動作保証しておりません。
- 入力/出力に使用できる文字コードについて

ジョブネットワーク名、部品名、コメント、単位ジョブスクリプトなどの入力値

→ JIS90互換の範囲でのみ入力可能

単位ジョブの標準出力、標準エラー出力

→ JIS2004で規定される全ての文字が出力可能(CL/Winで表示可能)



- ・ JIS2004で拡張された文字を表示するには、それらを表示可能なフォントパッケージがOSにインストールされている必要があります。

- ・ SAP ERP Option機能およびBI Option機能を利用する場合は、必ずJobCenterの言語設定で非UNICODE環境で構築してください。UNICODE環境で構築されたJobCenterではこれらの機能は利用できません。

かつ、接続先のSAPシステムがUnicode版の場合は、あらかじめJobCenterの動作するマシン側で環境変数SAP_CODEPAGEを設定しておく必要があります。
詳細については「JobCenter SAP機能利用の手引き」を参照してください。

■ UNIX版とWindows版の差分について

UNIX版JobCenterでは、ジョブの実行時にLANGがUTF-8として実行され、ジョブの出力結果もUTF-8として処理され保存されます。

それに対してWindows版JobCenterでは、コマンド実行シェル(cmd.exe)がSJISのスクリプトのみの動作となるとため、各種ファイルはSJISで定義されます。

ただし、ジョブの実行はUTF-16として行われて(これは内部的にはコマンドプロンプト上で、/Uオプションを使用したのと同じ動作です)出力結果はUTF-16で出力となりますが、JobCenterがデータとして保存する場合にはこれをUTF-8に変換して格納します。

以下にUNIX版JobCenterをマネージャ(MG)として構成した場合のモデルと、Windows版JobCenterをマネージャ(MG)として構成した場合のモデルを例として示します。

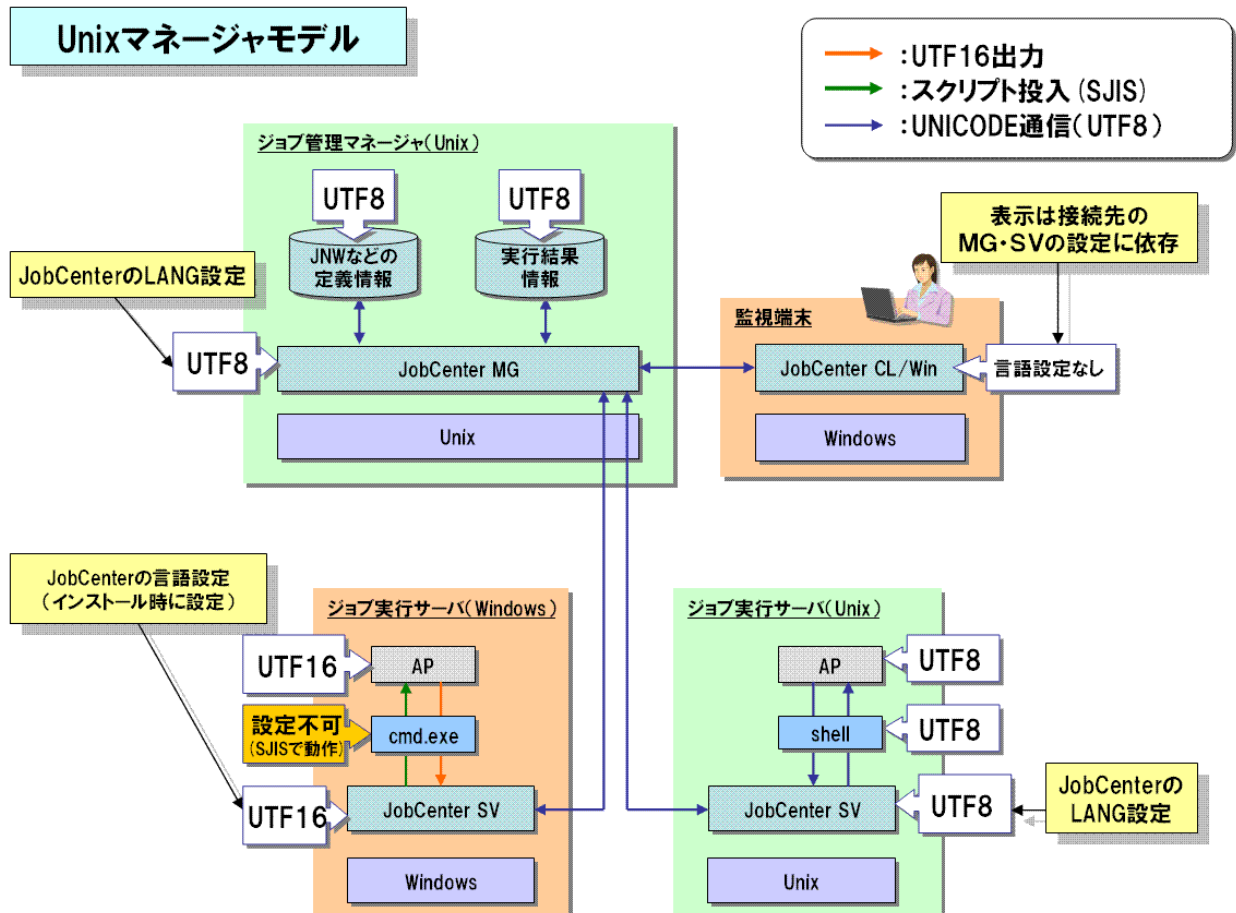
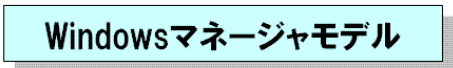


図2.2 UNIXマネージャモデル



- 接続互換性について

- ・ MG-SVの接続互換性

- ・ CL/Win-MG/SVの接続互換性

8



UNICODE環境を利用する場合、JobCenterを利用するMG,SV全てをUNICODE環境で統一する必要があります。従って、異なる文字コードでセットアップされた他のマシンをマネージャフレームのマシン一覧には追加することはできません。(nmappmgr サブコマンドを使うと追加できますが、動作保証しません。)

またUNICODE同士であっても、UNIXとWindows間で転送した単位ジョブリクエストをqmgrサブコマンドでshow long queueで表示すると、キュー内ジョブリクエストに表示されるパスに含まれるジョブネットワーク名や単位ジョブ名に日本語が含まれる場合、パスは文字化けします。

■ バージョンアップについて

UNIX版JobCenter R12.6以前をインストール済みの環境において、JobCenter R12.7以降にバージョンアップし、文字コードとしてUNICODEを選択した場合、既存のジョブネットワークの定義データを引き継ぐことができません。

既存の定義データを引き継ぎたい場合は、UNICODE以外を選択してください。

■ インポート・エクスポート機能について

エクスポートしたデータを、文字コードが異なる環境にはインポートできません。

したがって、JobCenter R12.6以前の環境でエクスポートしたデータを、JobCenter R12.7以降のUNICODE環境にインポートすることはできません。

■ イベント連携について

イベント連携の設定においてEVENTIFがSS(デフォルト)の場合、UNICODE環境では利用できません。



SystemManagerについてはプラットフォームによってUTF-8のテキストログ監視機能がサポートされているものもあり、連携可能な場合があります。

詳しくはSystemManagerのマニュアルをご確認ください。

■ ログについて

前述のイベントのテキストログ出力や操作・実行ログ、エラーログは、UNIX版とWindows版では出力される文字コードが異なりますのでご注意ください。

UNIX版	セットアップ時の文字コードに依存
Windows版	常にSJIS

2.1.2. ネットワークを設定する

JobCenterはTCP/IPネットワークの設定が正しく行われていることを前提として動作します。

マシンの正式ホスト名からIPアドレスを求め、そのIPアドレスから得られたホスト名が正式ホスト名に一致していない場合、JobCenterは動作できません。このチェックはドメインの有無まで行いますので、正確に一致するように設定してください。

複数のマシンでJobCenterを運用する場合、すべてのマシンでホスト名やIPアドレスのデータが一致する必要があります。DNSやhostsファイルの更新漏れなどがないように十分に注意してください。

CJCオプションを使用しないで複数のネットワークカードが実装されている場合、最も優先されるネットワークカード上で動作します。たとえば、UNIX環境の場合、hostnameコマンドで返却されるホスト名を使ってJobCenterは動作します。

ネットワークの設定の詳細については<環境構築ガイド>の2章「ネットワーク環境構築」を参照してください。



UNIX環境で複数のネットワークカードに対して同じホスト名やIPアドレスを割り当てられている場合、インストールや初期設定が行えることがありますが、誤動作の原因になりますので、インストールや初期設定は行わないでください。

なお、Windows環境の場合はresolv.defファイルによる名前解決指定が必要になる場合があります。<環境構築ガイド>の「2.3 Windowsでネットワーク環境を構築する場合」も参照してください。

ネットワークを設定する際には、次の事項に注意してください。

- ホスト名の名前解決において、正引/逆引が行えること。
- 正引/逆引で、エイリアス名(別名)ではなくホストの正式名が一致すること。
- 複数のネットワークカードを実装している場合、個々のネットワークカードに一意のホスト名/IPアドレスが割り当てられていること。
- JobCenterの連携を行うホスト間で、ホスト名/IPアドレスのデータが一致していること。
- JobCenterがセットアップされるホスト間にファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対してJobCenterが使用するネットワークポートの穴あけ作業をすること。
- Windows XP Professional(SP2以上)、Windows Server 2003(SP1以上)、Windows Server 2008にJobCenter MG/SVをセットアップした場合、Windowsファイアウォールの例外設定を行うこと。

特にWindows Server 2008環境では、デフォルトでファイアウォールの設定がONになっていますので注意してください。

ファイアウォールの例外設定を行う際のポート番号については、<環境構築ガイド>の「2.1 JobCenterで使用するTCPポート」を参照してください。

- 利用するTCP/IPポート番号が、他のサービスと競合しないこと。JobCenterで利用するポート番号の設定変更については<環境構築ガイド>の「2.1 JobCenterで使用するTCPポート」を参照してください。



インストール・セットアップ完了後、CL/WinでMG/SVに接続すると、マシン一覧に表示されるマシンアイコンについて、同一マシンが「ホスト名のみ」と「FQDN」の2通りでアイコンが2個表示される場合があります。これはセットアップやマシングループへのマシン追加の際に、FQDNで認識されるマシンについては自動的にホスト名をみの「エイリアス名」を別名として設定するためです。

エイリアス名はマネージャフレームのマシン一覧表示で運用上の役割で識別したい場合や、nmapmgrやqmgrサブコマンドにおける利便性向上のために利用することができます。(ただし有効範囲は自マシン(サイト)内だけです。通信上の名前解決には使用できません)

エイリアス名が不要な場合は、CL/Winからではなくnmapmgrコマンドで削除することができます。<コマンドリファレンス>の「3.13.3 サブコマンド」の「Delete Name \$alias」を参照してください。

2.1.3. マシンIDを割り当てる

JobCenterでは、インストール時にそのシステム内で一意となるマシンIDを割り当てる必要があります。マシンIDは1～2147483647の間の整数値を指定します。

マシンIDを割り当てる際には、次の事項に注意してください。

■複数のマシンでJobCenterを使う場合には、マシンIDが重複しないこと。

たとえばUNIXのマネージャマシンから複数のWindowsのサーバマシンへ単位ジョブの転送を行う場合などで、マシンIDが重複していると正常に動作できません。

ローカルサイトとクラスタサイト間でも重複することはできません。

■設定後にマシンIDを変更する場合に備えて、最初に運用ルールを決めておくこと。

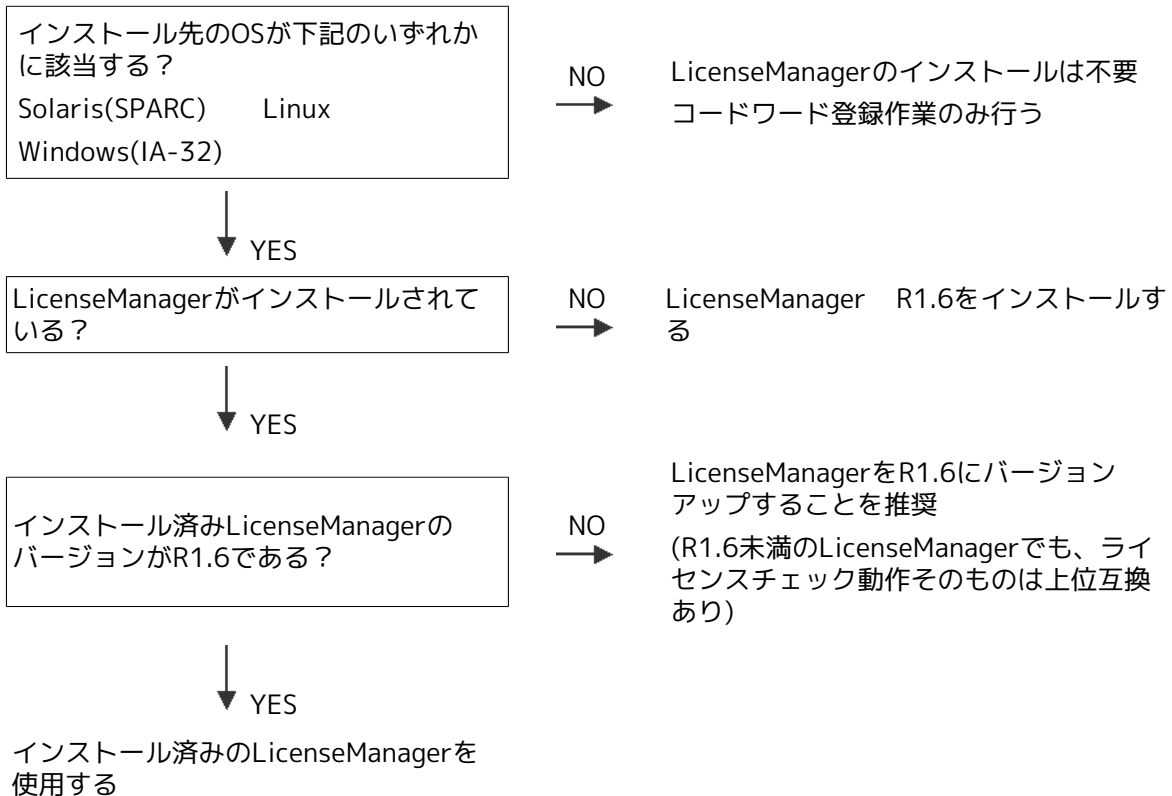
各マシンは別マシンのマシンIDも保持する場合があります。この各マシンの持つ他マシンIDの情報が一致していないと予期せぬ動作を引き起こす可能性があります。

システム内の各マシンでローカルサイトやクラスタサイトのマシンIDを変更する場合、運用ルール未整備で一部のマシンに更新漏れがあると、ジョブ転送先キューが認識できなくなるなど誤動作の原因になります。

2.2. LicenseManagerをインストールする

LicenseManagerはライセンス管理用製品です。JobCenterはLicenseManagerを使用してライセンスチェックを行います。

JobCenter製品をインストールする前に、まずLicenseManagerをインストールしてください。LicenseManagerのインストールの要/不要は下図を参照して判定してください。



LicenseManagerがインストール済みかどうか、およびバージョンを確認する具体的な方法は次節以降のOSごとの説明を参照してください。

なおLicenseManager R1.6では下記の点が改善されています。R1.6以前のバージョンがインストールされている場合は、R1.6へのバージョンアップを推奨します。

- コードワード登録後のJobCenter 起動時のライセンスチェックにおいて、コードワードを登録していない型番についての警告メッセージをイベントログ(Windows)およびsyslog(Linux/UNIX)へ出力しないように改善
- 型番を指定してお試し期間の残日数を確認できるコマンドを追加



R1.6以前のバージョンのままだでも、ライセンスチェック動作そのものには上位互換性があるため問題はありません

2.2.1. Solaris(SPARC)版

1. 必要ディスク容量とメモリ容量

LicenseManagerをインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表2.1 LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Solaris版)

固定ディスク容量	/opt : 1 MB /etc : 1 MB /usr : 1 MB
メモリ容量	3 MB

2. LicenseManagerのインストール

インストールは以下の手順で行います。

a. LicenseManagerの確認

- i. マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

- ii. LicenseManagerのインストールを行う前に、LicenseManagerがすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM ↵
```

- 次のように表示された場合、LicenseManagerをインストールする必要はありません。

<LicenseManager R1.6がすでにインストールされている場合>

```
PKGINST: NECWSLM
NAME: WebSAM License Manager
CATEGORY: application
ARCH: Solaris
VERSION: 1.6
--(以下、省略)--
```

- 次のように表示された場合、LicenseManagerのバージョンアップを推奨します。

<R1.6より古いLicenseManagerがインストールされている場合>

```
PKGINST: NECWSLM
NAME: WebSAM License Manager
CATEGORY: application
ARCH: Solaris
VERSION: Release1.3 Rev00
--(以下、省略)--
```



上記の例では1.3ですが、この部分が1.6でない場合は古いバージョンです。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は「[4.1 LicenseManagerをアンインストールする](#)」を参照してください。

- 次のように表示された場合は、引き続きLicenseManagerのインストールを行います。

<LicenseManagerがインストールされていない場合>


```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

b. LicenseManagerのインストール

LicenseManagerはJobCenterメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- i. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法はSolarisの製品マニュアル等を参照してください。
- ii. 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <WSLM_PRODUCT_PATH> <
```



<WSLM_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値はJobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

インストール実行中にメッセージが表示されますが、エラー表示がなければインストールは正常に終了しています。

pkgaddのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、Solarisの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

- iii. 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /bin/pkginfo -l NECWSLM <
```

STATUS: の項が次の表示になっていればインストールは正常に終了しています。

```
STATUS: completely installed
```

2.2.2. Linux版

1. 必要ディスク容量とメモリ容量

LicenseManagerをインストールして動作させるには、次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表2.2 LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Linux版)

固定ディスク容量	/opt : 1 MB /etc : 1 MB /usr : 1 MB
メモリ容量	1 MB

2. LicenseManagerのインストール

インストールは以下の手順で行います。

a. LicenseManagerの確認

- i. マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root <
```

- ii. LicenseManagerのインストールを行う前に、LicenseManagerがすでにインストールされていないかどうかを確認します。

```
root> /bin/rpm -qa NECWSLM <
```

- 次のように表示された場合、LicenseManagerをインストールする必要はありません。

<LicenseManager R1.6がすでにインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.6-1
```

- 次のように表示された場合、LicenseManagerのバージョンアップを推奨します。

<R1.6より古いLicenseManagerがインストールされている場合>

```
NECWSLM-1.3.00-1
```



上記の例では1.3.00ですが、この部分が1.6でない場合は古いバージョンです。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は「[4.1 LicenseManagerをアンインストールする](#)」を参照してください。

- 何も表示されなかった場合、LicenseManagerはインストールされていません。引き続きLicenseManagerのインストールを行います。

b. LicenseManagerのインストール

LicenseManagerはJobCenterメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- JobCenterメディア (CD-ROM) をセットしてマウントします。マウント方法はLinuxの製品マニュアル等を参照してください。
- 次のコマンドによりインストールを実行します。

- IA32およびEM64Tの場合

```
root> /bin/rpm -i <WSLM_PRODUCT_PATH> <
```



<WSLM_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値はJobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

- 次のメッセージが表示されれば、インストールは正常に終了しています。

```
***** now installing *****
Installation was successful.
```

rpmのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、Linuxの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

- 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

```
root> /bin/rpm -qa NECWSLM <
```

次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

```
NECWSLM-1.6-1
```

2.2.3. AIX版

LicenseManagerのインストールは必要ありません。

「2.3 コードワードを登録する」の.lockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

2.2.4. Windows版

32bit版Windowsについて、LicenseManagerをインストールします。

64bit版Windows(x64/EM64T/AMD64)の場合はLicenseManagerのインストールは不要です。「2.3 コードワードを登録する」の.lockinfoファイルへのコードワード登録のみ行ってください。

1. 必要ディスク容量とメモリ容量

LicenseManagerをインストールし、動作させるには次の固定ディスク容量および使用メモリ容量が必要です。

表2.3 LicenseManagerのインストールに必要な固定ディスクとメモリの容量(Windows版)

固定ディスク容量	2 MB
メモリ容量	2 MB

2. LicenseManagerのインストール

インストールは以下の手順で行います。

a. LicenseManagerの確認

- i. マシンを立ち上げ、Administrator権限のあるユーザでログインします。
- ii. LicenseManagerのインストールを行う前に、LicenseManagerがすでにインストールされていないかどうかを確認します。

■Windows XP, Windows Server 2003

「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」でコントロールパネルを表示させます。「プログラムの追加と削除」画面で「WebSAM LicenseManager(MainPart)」のエントリがないことを確認します。

■Windows Vista, Windows Server 2008

「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」でコントロールパネルを表示させます。「プログラムと機能」画面で「WebSAM LicenseManager(MainPart)」のエントリがないことを確認します。

- iii. LicenseManagerがすでに存在していた場合はバージョンを確認します。確認方法は下記のとおりです。

■Windows XP, Windows Server 2003

「プログラムの追加と削除」画面で「WebSAM LicenseManager(MainPart)」のエントリの「サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。」をクリックし、サポート情報ダイアログを表示させます。

■Windows Vista, Windows Server 2008

「プログラムと機能」画面の「表示(V)」メニューから「詳細表示の設定」を選択して「バージョン」にチェックを入れることで、バージョン情報が表示されます。

バージョンが1.6でない場合、LicenseManagerのバージョンアップを推奨します。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は「[4.1 LicenseManagerをアンインストールする](#)」を参照してください。

- iv. LicenseManagerが存在しなかった場合は、引き続きLicenseManagerのインストールを行います。
- v. なおLicenseManager 1.6以降は、インストールの際にWindows Installer 3.1以上が必要になります。Windows Installer 3.1がインストールされているか、事前に確認してください。

Windows Installerのバージョン確認方法やインストーラの入手についての詳細はMicrosoftの次のページを参照してください。 <http://support.microsoft.com/kb/893803>

b. LicenseManager(MainPart)のインストール

LicenseManagerはJobCenterのメディアに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

- i. JobCenterのメディアから、パッケージファイル（setup.exeおよびlmsetup.msi）をローカルディスク上の任意の同一フォルダ内にコピーします。ここでは、C:\setup.exeおよびC:\lmsetup.msiにコピーします。
- ii. コピーしたsetup.exeファイルを実行し、LicenseManagerのインストーラを起動します。
- iii. 次のような画面が表示されますので、[Next>] ボタンをクリックします。

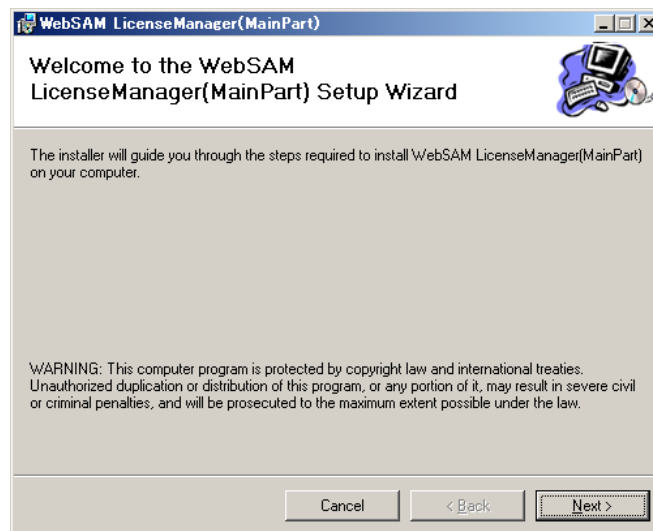


図2.4 インストール初期画面

- iv. 「Select Installation Folder」画面が表示されます。インストール先のフォルダを決定後、[Next>] ボタンをクリックします。

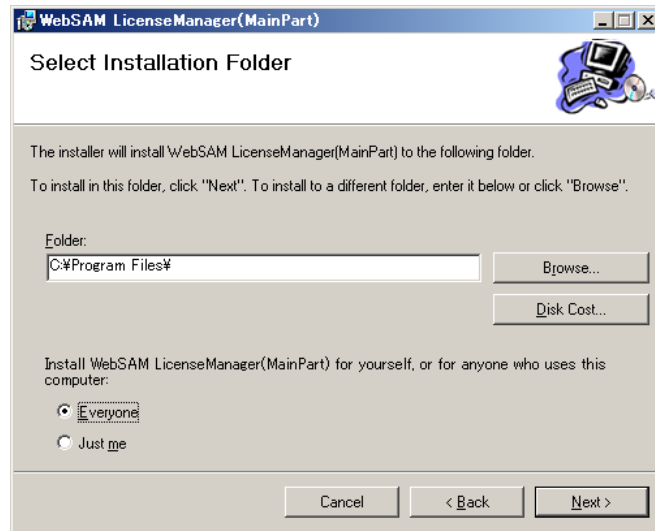


図2.5 インストール先設定画面



既定のインストール先フォルダを変更する場合には、[Browse...] ボタンをクリックして表示された画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択して [OK] ボタンをクリックします。

v. 確認画面が表示されます。設定が完了したら [Next >] ボタンをクリックします。

設定内容を変更する場合は、[< Back] ボタンをクリックし各項目の画面まで戻って設定をやり直します。

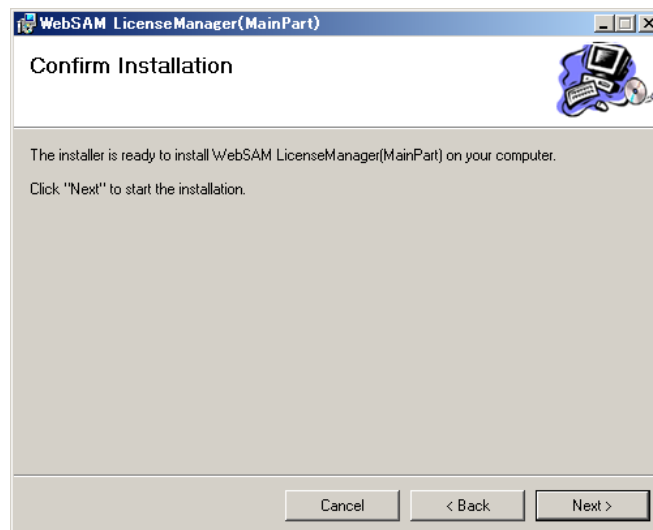


図2.6 確認画面

vi. すべてのインストールが完了すると次の画面が表示されます。[Close] ボタンをクリックしてください。

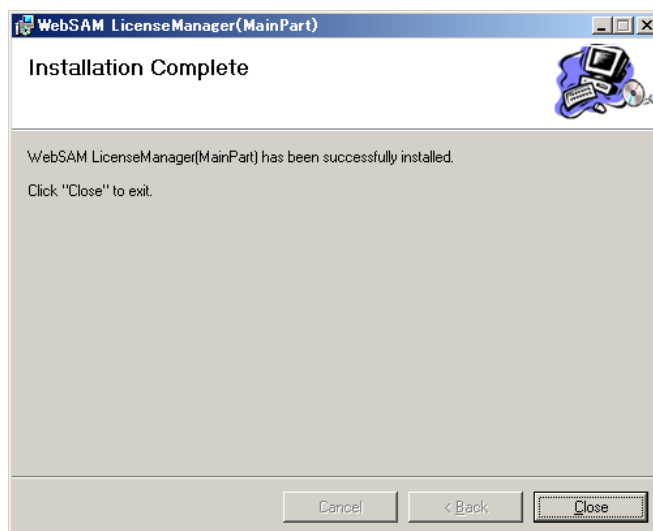


図2.7 完了画面



再起動を促すメッセージが表示された場合は、JobCenterプロダクトをインストールする以前に、必ずシステムを再起動してください。

ここまでで「LicenseManager(Main Part)」のインストール作業は完了です。

最後に、インストールが正常に終了したかを確認します。

viiWindowsの「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」で「プログラムの追加と削除」を実行します。

次の画面例のように「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリーが表示されていれば正常に終了しています。



図2.8 プログラムの追加と削除画面例

2.3. コードワードを登録する

LicenseManagerのインストールが終了したあとで、JobCenterをセットアップする前にライセンス解除のためのコードワードの登録を行います。

2.3.1. コードワードの登録作業

1. 次のファイルに対してコードワードの登録を行います。コードワードはあらかじめコードワード発行センターに申請して入手しておいてください。

UNIX	/etc/opt/wsnlesd/.lockinfo
Windows	%InstallDirectory%\wsnlesd\etc\opt\wsnlesd\lockinfo



%InstallDirectory%はLicenseManagerのインストールディレクトリを示します。デフォルトはOSをインストールしたドライブの\Program Filesです。

LicenseManagerのインストールが不要なプラットフォーム(HP-UX(IPF)、Solaris(x64/x86)、AIX、64bit版Windows(x64/EM64T/AMD64))の場合は、LicenseManagerのインストールは不要ですので、コードワードの登録のみを行います。上記のパスの通りにディレクトリとテキスト形式のlockinfoファイルをあらかじめ作成してから、以下の作業を行ってください。



UNIXの場合は存在しないサブディレクトリを上記の通りに作成します。 Windowsの場合は暫定的に C:\Program Files\wsnlesd\etc\opt\wsnlesd\lockinfo として作成してください。

それぞれの.lockinfo(lockinfo)ファイルに「型番 コードワード」の形式で登録します。次の例のように型番とコードワードの間は1個以上のスペースまたはタブで区切ってください。

<.lockinfo(lockinfo)ファイルへの登録例>

```
UQ4322-H0C4A1 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l
UQ4370-H0C1B1 u4v%daE6VNGKk2VdrS50yQwuofQCbb0#LSUVDqv4Pi8z
UQ4343-H0C1A1 Ses3s1VedNUShcoJkYR46MjqHDTKpdj#dQXZEvtMVRxz
... ..
```



- コードワードの転記の際に、0とO、1とlなど間違わないように注意してください。
- 購入製品と異なる型番や、マシン上でアクティブにならないIPアドレスで申請したコードワードを登録しても無効です。



- コードワードの登録を行わない場合でも、お試し期間の60日間はJobCenterを使用することが可能です。お試し期間を過ぎるとJobCenterの再起動ができなくなるので注意してください。
- LicenseManagerのバージョンがR1.6以降の場合は、wsnlcheckコマンドを使ってお試し期間の残日数を確認できます。wsnlcheckコマンドの使い方は、次頁を参照してください。

2. コードワードの確認作業

ライセンスロックの解除状態は、次のコマンドで確認できます。

■LicenseManager R1.6以降の場合

■ UNIX

```
root> /opt/wsnlesd/bin/wsnlcheck 型番 <↑
```

■ Windows

```
C:\> %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsnlcheck 型番 <↑
```



OSがHP-UX(IPF)、AIX、64bit版Windows(x64/EM64T/AMD64)の場合は上記の確認作業は不要です。LicenseManager自体をインストールしないため、コードワードの正常性チェックの方法はありません。JobCenterが正常に起動して動作していれば問題ありません。

なお将来的に実装が変更される可能性がありますので、必ず前項の手順に従って所定の位置に.lockinfo(またはlockinfo)ファイルを作成し、発行されたコードワードをミスのないよう転記して登録しておいてください。

出力結果と、その意味や対処は以下のとおりです（XXXXXX-XXXXXXは型番を表します）。

出力結果	意味・対処
XXXXXX-XXXXXX "LICENSED" 出力例： UQ4321-X0Y1Z2 "LICENSED"	正しくライセンス解除できています。
No license of XXXXXX-XXXXXX 出力例： No license of UQ4321-X0Y1Z2	指定した型番に関するライセンス情報はあり ません。 コードワードを未登録かつJobCenterをイン ストールしていない場合に表示されます。 コードワード登録後に表示された場合は、 コードワードが正しく認識されていません。 下記の項目を確認してください。 ■ .lockfile(lockfile)に登録したコードワード に間違いはありませんか？ ■ .lockfile(lockfile)に登録した型番は、コード ワード申請時に指定した型番と一致して いますか？ ■ マシンのIPアドレスは、コードワード申請 時に指定したIPアドレスと一致しています か？
XXXXXX-XXXXXX "TRIAL" (until YYYY/ MM/DD) 出力例： UQ4321-X0Y1Z2 "TRIAL" (until 2009/08/31)	YYYY/MM/DDまで、お試し期間中です。 コードワード登録後に表示された場合は、 コードワードが正しく認識されていません。 下記の項目を確認してください。 ■ .lockfile(lockfile)の作成ディレクトリおよ びファイル名に間違いはありませんか？

	■ .lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？
XXXXXXXX-XXXXXX "NO LICENSE(TRIAL)" (expired YYYY/MM/DD) 出力例： UQ4321-X0Y1Z2 "NO LICENSE(TRIAL)" (expired 2009/08/31)	YYYY/MM/DDで、お試し期間が終了しています。

■<LicenseManager R1.5以前の場合>

■ UNIX

```
root> /opt/wsnlesd/bin/wsnlesd -p 型番 ←
```

■ Windows

```
C:\> %InstallDirectory%\wsnlesd\bin\wsnlesd -p 型番 ←
```



R1.6以降にもこのコマンドは含まれますが、R1.6の場合はより多くの情報が表示される wsnlcheck の利用を推奨します。

出力結果と、その意味や対処は以下のとおりです（XXXXXXXX-XXXXXXは型番を表します）。

出力結果	意味・対処
XXXXXXXX-XXXXXX "" 出力例： UQ4321-X0Y1Z2 ""	正しくライセンス解除できています。
XXXXXXXX-XXXXXX "TRIAL" 出力例： UQ4321-X0Y1Z2 "TRIAL"	お試し期間中です。 ただしコードワード登録後に表示された場合は、コードワードが正しく認識されていません。下記の項目を確認してください。 ■ .lockfile(lockfile)に登録した型番に間違いはありませんか？
Error<>:License_Check() failed. rc : ? 出力例： Error<>:License_Check() failed. rc : 3	処理中にエラーが発生しました。 コードワードが正しく登録されていません。下記の項目を確認してください。 ■ rc : 3 … .lockfile(lockfile)に登録したコードワードに間違いはありませんか？0とO、1とIなどの転記間違いが無いか確認してください。 ■ rc : 4 … .lockfile(lockfile)に登録した型番は、コードワード申請時に指定した型番と一致していますか？ ■ rc : 5 … マシンのIPアドレスは、コードワード申請時に指定したIPアドレスと一致

していますか？LANケーブルは接続されていますか？

- rc : 6 … ライセンス有効期間を超過しています。正規のライセンスを取得しなおしてください。

2.3.2. LicenseManagerインストール後に出力されるメッセージ

LicenseManagerインストール後、次のようなメッセージがsyslog(Windowsの場合はイベントログ)に出力される場合があります。

■UNIXの場合

日付 時刻 ホスト名 wsnlesd: The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD.



「型番-*」の記述は、例えば「UW0312-H2NA00」といった製品型番の「-」よりも前の記載部分を示しています。

メッセージには「UW0312-*」などと表示されます。

■Windowsの場合

The license of this 型番-* is invalidated on YYYY/MM/DD.

上記メッセージは「型番-*」の製品がお試し期間に入っていることおよびその有効期限を示すメッセージです。

これらは、コードワードが登録されていないJobCenter製品の型番ごとに出力されます。当該型番「型番-*」のコードワードが正しく登録されていれば出力されません。

ライセンス登録後に上記メッセージが出力される場合、出力されたメッセージの型番部分を確認し、.lockinfo(lockinfo)ファイルに登録したコードワードの型番に該当するかどうかを確認してください。

■登録済みの型番について上記メッセージが出力された場合

コードワードが正しく設定されていない可能性があります。[「2.3.1 コードワードの登録作業」](#)のwsnlesdコマンドによる確認方法を参照して、コードワードの登録状態を再度確認してください。

■出力されたすべてのメッセージの「型番-*」が、登録したコードワードの型番に該当しない場合

メッセージは無視してかまいません。登録されたコードワードにより、ライセンスは解除されています。このメッセージは、メッセージ中に明示された有効期限が過ぎると出力されなくなります。(なお、上記の期限切れ警告メッセージを抑制する方法はありません)

以下はメッセージの出力例です。

1. 次のようにコードワードが登録されています。

UW0312-H2NA00 reYrD4Eyh0Viab9BCPnw0RzmlG76acjKHRV9Vp%Yyr0l

2. 次のようなメッセージがsyslogに出力されます。

Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4321-* is invalidated on 2005/04/30.

```
Mar 1 15:35:02 shaker wsnlesd: The license of this UQ4322-* is invalidated on  
2005/04/30.
```

3. この場合、出力されたメッセージは登録した「UW0312-*」以外の型番に関するものであるため、このメッセージは無視してかまいません。

「UW0312-*」についてはライセンス解除されているため、JobCenterは問題なく起動します。

2.4. JobCenter MG/SVをインストールする

JobCenter MGとSVは共通のパッケージです。以降「JobCenter MG/SV」と表記し、インストール方法を解説します。



一台のマシンでMGとSVの両方の役割を果たす場合でも、インストールは一回だけ行ってください。ただし、コードワードの登録はJobCenter MGとJobCenter SVの2つ分が必要です。

2.4.1. HP-UX版

HP-UX版のJobCenter MG/SVのインストール手順を示します。

JobCenterメディアはRockRidge形式で作成されていますので、HP-UXでCD-ROMをマウントする際は次のようにmountコマンドでマウントします。

1. rootユーザでログインし、ioscanコマンドでデバイス名の確認を行います。

```
root> /usr/sbin/ioscan -fnu -Cdisk <␣
```

2. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットし、次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/mount -F cdfs -o rr <device-name> <mount-point> <␣
```



マウントポイント(<mount-point>)およびデバイス名(<device-name>)はシステムにあわせて変更してください。

3. 次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/swinstall -s <HP_PRODUCT_PATH> NECJCpkg <␣
```



<HP_PRODUCT_PATH>はプロダクトのファイルパスです。実際の入力値はJobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

4. コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のメッセージを表示します。インストールは正常に終了しています。

```
* Execution succeeded.
```

swinstallのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、HP-UXの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

5. インストールが正常終了した後は[3章 「実行環境のセットアップ\(UNIX版\)」](#)へ進んでください。

2.4.2. Solaris版

Solaris版のJobCenter MG/SVのインストール手順を示します。

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法はSolarisの製品マニュアル等を参照してください。

2. 次のコマンドを実行してインストールを行います。

```
root> /bin/pkgadd -d <SUN_PRODUCT_PATH> <␣
```



<SUN_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値はJobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

3. コマンド実行後、システムはJobCenterがインストール可能であることを次のように表示し、入力待ちの状態となります。

```
The following packages are available:
 1 NECJCpkg      JobCenter MG/SV package for Solaris
                  (Solaris(XXXX)) YYYY
Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]:
```



XXXXにはアーキテクチャ(sparc or x86)が表示されます。

YYYYにはJobCenterのバージョンが表示されます。

4. パッケージのインストールを行う場合には、「1」を選択してリターンキーを押します。以降はインストーラの指示に従ってインストールを行います。

pkgaddのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、Solarisの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

5. インストールが正常終了した後は3章 [「実行環境のセットアップ\(UNIX版\)」](#) へ進んでください。

2.4.3. Linux版

Linux版のJobCenter MG/SVのインストール手順を示します。



■JobCenter R12.7から、RedHat版のインストールパッケージとMiracle版のインストールパッケージが共通化されました。

■Miracle Linuxの場合は、直接[「2.4.3.2 JobCenterのインストール」](#)の手順に進んでください。

2.4.3.1. 「互換アーキテクチャのサポート」パッケージのインストール(RHEL4とそれ以前のEM64Tシステムのみ)

JobCenterは32ビットアプリケーションであるため、EM64Tシステム上でJobCenterを動作させる場合は、RedHatOSにあらかじめ互換アーキテクチャのサポート」パッケージを追加インストールしておく必要があります。

OSインストール時に「カスタム」を選択して「互換アーキテクチャのサポート」パッケージ(の、すべてのパッケージ)を事前にインストールしてあることを確認してください。なお、Red Hat Enterprise Linux 6では、互換アーキテクチャのサポート用パッケージが存在しておりませんので、以下のパッケージのi686アーキテクチャ版をインストールする必要があります。

- glibc
- nss-softoken-freebl
- ncurses-libs
- pam
- audit-libs

- cracklib
- db4
- libselinux

2.4.3.2. JobCenterのインストール

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法はLinuxの製品マニュアル等を参照してください。
2. 次のコマンドを実行してインストールを行います。

■32ビットおよびEM64Tの場合

```
root> /bin/rpm -i <LINUX_PRODUCT_PATH> ↵
```



<LINUX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値はJobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

コマンド実行後、エラーメッセージが表示されなければインストールは完了です。

rpmのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、Linuxの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

3. インストールが正常終了した後は、[3章 「実行環境のセットアップ\(UNIX版\)」](#) へ進んでください。

2.4.4. AIX版

AIX版のJobCenter MG/SVのインストール手順を示します。



AIX環境では同一製品のインストール済みパッケージの確認が自動では行われなため、上書きインストールされる可能性があります。

必ず事前に他のJobCenter MG/SVがインストールされていないことを確認してください。

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法はAIXの製品マニュアル等を参照してください。
2. 次のコマンドで、メディア内のAIX版パッケージを適当なディレクトリに展開します。

```
root> cd <パッケージを展開するディレクトリ>
root> /usr/bin/tar xvf <AIX_PRODUCT_PATH> ↵
```



<AIX_PRODUCT_PATH>は、プロダクトのファイルパスです。実際の入力値は、JobCenterメディアのリリースメモ(RELMEMO)を参照してください。

3. 2つのファイルが展開されます。

```
.toc
NECJCpkg.XXXX.bff
```



上記のXXXXはJobCenterのバージョン表記に読み替えてください。

4. ③で解凍されたディレクトリ上で、次のコマンドを実行してインストールします。

```
root> /usr/sbin/installp -a -d. NECJCpkg <
```

5. コマンド実行後エラーがなければ、インストーラは次のようなメッセージを表示します。

```
NECJCpkg.base XXXX USR APPLY SUCCESS
```

installpのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、AIXの製品マニュアル等に従って対処して下さい。

6. インストールが正常終了した後は3章 [「実行環境のセットアップ\(UNIX版\)」](#) へ進んでください。

2.4.5. Windows版 (通常インストール)

Windows版のJobCenter MGの通常インストール手順を示します。Windows版の場合はインストールとセットアップは一連の流れで行われます。

JobCenter MGとJobCenter SVは同一のパッケージになっていてインストール手順も同じですので、JobCenter SVのインストールを行う場合でも、JobCenter MGのインストール手順にそのまま従ってください。

インストールを始める前に、次に挙げる注意事項を確認してください。

■一般的な注意事項

- インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。
- インストール先のマシンのWindowsに、ローカルのAdministratorsグループに所属するユーザでログインしてください。
- ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルのAdministratorsグループに所属するユーザでWindowsにログインしてから作業を行ってください。
- JobCenter管理者をドメインユーザとする場合は、ローカルのAdministratorsグループに所属するそのドメインユーザでWindowsにログインしてから作業を行ってください。その場合、同じアカウント名綴りのローカルユーザをJobCenterグループに所属させることはできません。
- ドメインコントローラ(PDC/BDC)にJobCenterをインストールする場合は、セットアップの「ユーザタイプ」で「ローカル」「ドメイン」は選択できません。(ドメイン固定になります)



%InstallDirectory%はJobCenter本体のインストールディレクトリを表します。(既定値はC:\JobCenter\SV)

■環境変数に関する注意事項

環境変数NQS_SITEが設定されていると、正常にセットアップが実行できません。事前に(例えばシステム環境変数などで)NQS_SITEの設定の有無を確認して、設定されていた場合は削除してからインストールしてください。

■権限に関する注意事項

JobCenterが正常に動作するためには、JobCenter管理者ユーザやその他のJobCenter利用ユーザに対して必要な権限が与えられていなければなりません。

これらの権限は[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー] および[ド

メインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。通常は特に問題なく付与されていますが、対象システムのセキュリティポリシーによっては付与されていないこともあります。

以下に必要な権限を記載しますので、これらの権限が付与されるようにしてください。

1. JobCenter利用者ユーザに必要な権限(通常、OS側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBatchLogonRight	バッチ ジョブとしてログオン
SeInteractiveLogonRight	ローカル ログオン

2. 1.に加えてJobCenter管理者に必要な権限(OS側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeBackupPrivilege	ファイルとディレクトリのバックアップ
SeChangeNotifyPrivilege	走査チェックのバイパス
SeCreateGlobalPrivilege	グローバル オブジェクトの作成
SeDebugPrivilege	プログラムのデバッグ
SeIncreaseQuotaPrivilege	プロセスのメモリ クォータの増加
SeNetworkLogonRight	ネットワーク経由でコンピュータへアクセス
SeRestorePrivilege	ファイルとディレクトリの復元
SeSecurityPrivilege	監査とセキュリティ ログの管理
SeSystemEnvironmentPrivilege	ファームウェア環境値の修正
SeTakeOwnershipPrivilege	ファイルとその他のオブジェクトの所有権の取得



上記のうちSeCreateGlobalPrivilegeについては設定確認コマンド(jc_check、jc_getinfo)のチェック対象になっていませんが、JobCenter管理者に必要な権限ですので、必ず付与されるようにしてください。

3. 1.2.に加えてJobCenter管理者に必要な権限(JobCenterセットアップ時に自動的に付与)

権 限	意 味
SeAssignPrimaryTokenPrivilege	プロセス レベル トークンの置き換え
SeServiceLogonRight	サービスとしてログオン
SeTcbPrivilege	オペレーティング システムの一部として機能

4. Administratorsグループに付与されることが望ましい権限(OS側でデフォルトで付与)

権 限	意 味
SeCreatePagefilePrivilege	ページ ファイルの作成
SeIncreaseBasePriorityPrivilege	スケジューリング優先順位の繰り上げ
SeLoadDriverPrivilege	デバイス ドライバのロードとアンロード
SeProfileSingleProcessPrivilege	単一プロセスのプロファイル
SeRemoteShutdownPrivilege	リモート コンピュータからの強制シャットダウン
SeShutdownPrivilege	システムのシャットダウン
SeSystemProfilePrivilege	システム パフォーマンスのプロファイル



これらの権限がなくてもJobCenter自身の動作に影響を与えることはありません。ただし、JobCenterのジョブから起動するコマンドがAdministratorsのデフォルト権限を必要とする場合に影響がありますので、付与されることを推奨します。

その他、Windows 版に関するJobCenter ユーザとしての要件については「[2.1.1 注意事項の事前確認](#)」の「Windows の場合の注意事項」を参照してください。

■Windows XP ProfessionalマシンにJobCenterをインストールする際の注意事項

次の1.2.の条件を必ず同時に満たしてください。

1. Windows XP Professionalへのログインユーザが“Administrators”グループに所属していること。
2. 次のどれか1つが設定されていること。
 - a. 対象のWindows XP Professionalマシンが「ドメイン環境」である。
 - b. Windows XP Professionalへのログインユーザに次の設定がされている。

ポリシー「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」のセキュリティの設定が「クラシック：ローカルユーザをローカルユーザとして認証する」である。



〔スタート〕－〔ファイル名を指定して実行〕を選択して〔secpol.msc〕を実行します。

〔ローカルセキュリティ設定〕ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより〔セキュリティの設定〕－〔ローカルポリシー〕－〔セキュリティオプション〕のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

- c. 「guest」アカウントにポリシー「ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する」の権限が付与されていない。



〔スタート〕－〔ファイル名を指定して実行〕を選択して〔secpol.msc〕を実行します。

〔ローカルセキュリティ設定〕ダイアログが表示されますので、右ペインのツリーより〔セキュリティの設定〕－〔ローカルポリシー〕－〔ユーザ権利の割り当て〕のツリーアイコンを選択してポリシーを表示します。

■JobCenter(SV/NT)R4.1以前のバージョンをインストールしている場合の注意事項

JobCenter(SV/NT)R4.1以前のバージョンをインストールしている場合は、あらかじめアンインストールする必要があります。

1. インストールしたときのCD-ROMをマシンのCD-ROM装置にセットします。
2. Windowsの〔スタート〕－〔ファイル名を指定して実行〕を選択します。
3. 次のファイル名を指定して〔OK〕ボタンを選択します。

Q:\PRODUCT\WIN\JB_SV\DISK1\SVUNINST.EXE



ここではCD-ROMドライブをQ:ドライブとして説明します。

CD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

■MFSC(MSCS)クラスタ環境の場合の注意事項

MFSC(MSCS)クラスタ環境で前のバージョンをアンインストールして新しいバージョンをインストールする際は、特別な手順で行う必要があります。

詳細についてはマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。

■サイレントインストール用設定ファイル作成時の注意事項

手順12.で作成するサイレントインストール用設定ファイルを他のマシンで使いたい場合は、

- 手順8.のJobCenterが使用するIPアドレス指定で、必ず[自動設定]を選択してください。
- マシンIDの重複を防ぐため、設定ファイルを保存する度にいったん手順11.に戻ってマシンIDを変更した上で、ファイル名を変えて保存してください。
- インストールマシンごとにJobCenter管理者ユーザやパスワード、JobCenterグループを変えて保存することはできません。(ローカルユーザで各マシンで同一アカウント名・パスワードのユーザを指定するか、ドメインアカウントをJobCenter管理者としてください)

通常インストールの手順は以下のとおりです。

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットして、Windowsの [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。

次のファイル名を指定して [OK] ボタンを選択します。CD-ROMドライブをQ: ドライブではなく他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

■IA32用の32ビットネイティブバイナリの場合

```
Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x86\jcsetup.exe
```

■x64(EM64T/AMD64)用の64ビットネイティブバイナリの場合

```
Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x64\jcsetup.exe
```

2. セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

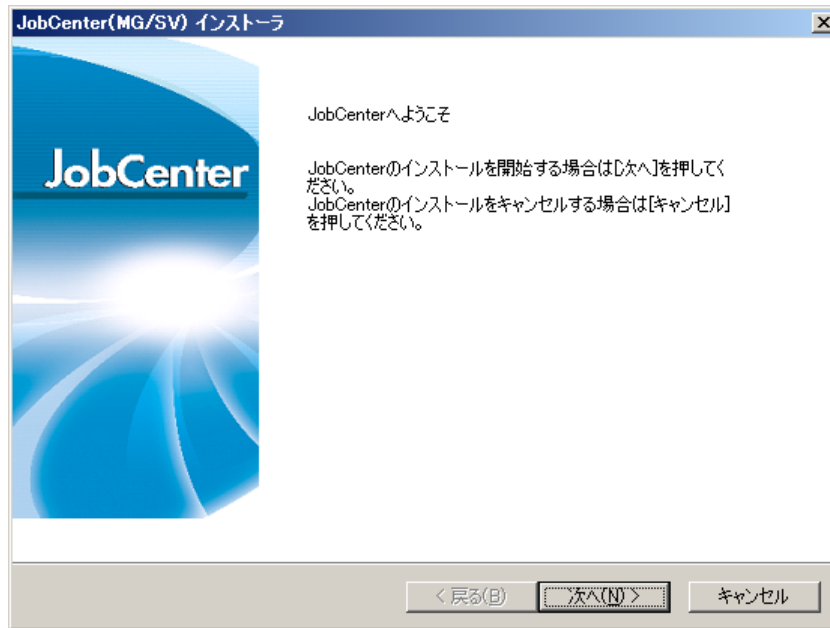


図2.9 セットアップ開始画面

3. 前回のインストール時に設定した内容を保存した設定ファイルの読み込みを行うことができます。（ただし、他のPCで保存した設定ファイルは使用できません）

設定ファイルを読み込む場合、[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れた後、[参照]ボタンを押して画面の指示に従って設定ファイルを指定してください。

設定ファイルを読み込まない場合は[作成済みの設定ファイルを読み込む]にチェックを入れずに [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

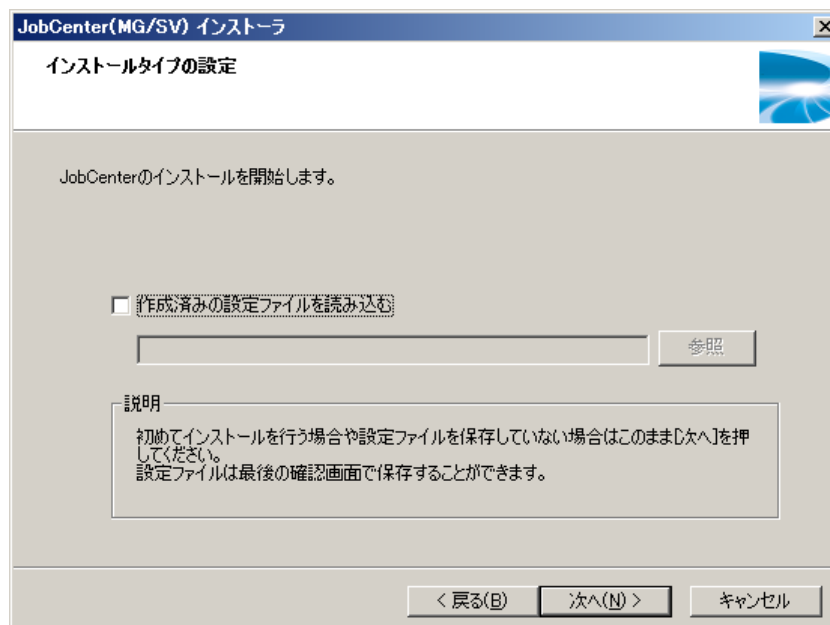


図2.10 インストールタイプの設定



設定ファイルは「12.確認画面」で作成することができます。

4. インストールする言語(日本語または英語)を選択して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

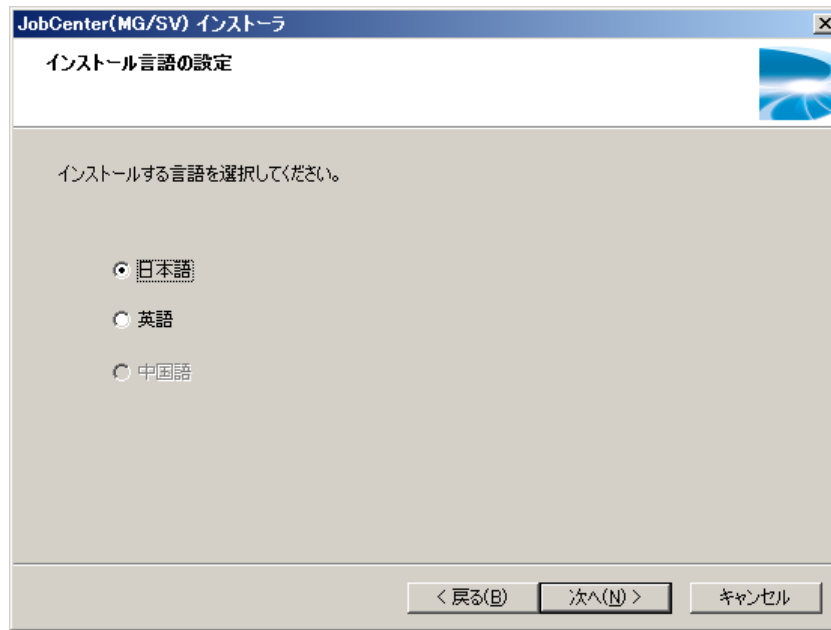


図2.11 インストール言語の設定画面

5. インストール先のフォルダを選択して [次へ>(N)] ボタンをクリックします。

インストール先のフォルダの初期値は「C:\JobCenter\SV」となっています。

インストール先のフォルダを変更する場合は [参照] ボタンをクリックして、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択して [OK] ボタンをクリックします。

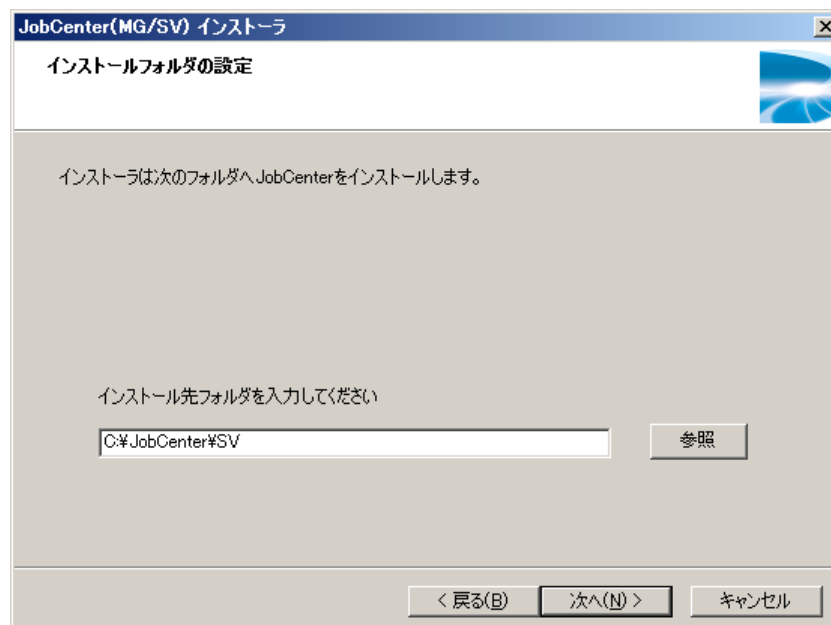


図2.12 インストールフォルダの設定画面



インストールフォルダ名にタブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。

インストールパスに日本語を含めることはできません。

[次へ>(N)]ボタンをクリックした時に、古いバージョンのユーザ定義情報を含んでいるディレクトリを指定するか、再インストール時に再インストール前と同じディレクトリを指定した場合に下記の画面が表示されることがあります。

定義情報を引き継ぐ場合は[はい]ボタンを押してください。

定義情報を削除してインストールを行う場合は[いいえ]ボタンを押してください。

別のディレクトリに変更する場合は[キャンセル]ボタンを押してインストール先を変更してください。

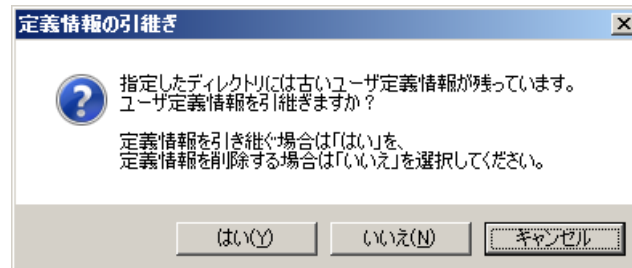


図2.13 定義情報の引継ぎダイアログ

6. プログラムフォルダを入力して [次へ>(N)] ボタンをクリックします。

ショートカット作成先のフォルダの初期値は「JobCenter\SV」となっています。

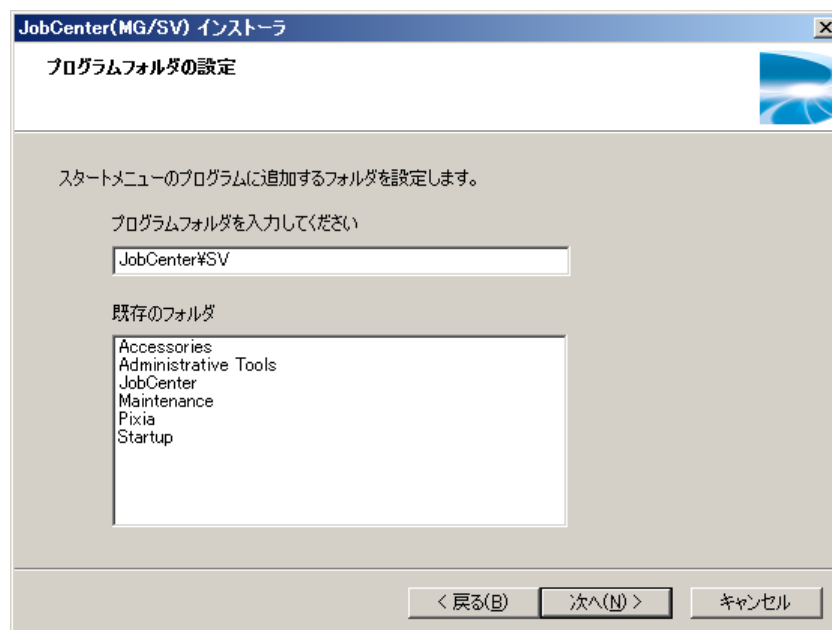


図2.14 プログラムフォルダの設定



プログラムフォルダ名に日本語を使用することはできません。

7. JobCenterで使用する管理者ユーザの登録を行います。

管理者ユーザ、管理者パスワード(2箇所)、JobCenterグループ名、ドメイン名を入力して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

存在しないアカウント名を入力した場合は、新規にアカウントが作成されます。

存在しないグループ名を入力した場合は、新規にグループが作成されます。

ドメインユーザを選択した場合、信頼関係を結んでいる別ドメインのユーザを管理者ユーザとして登録することも可能です。

図2.15 JobCenter管理者の設定画面



■ユーザ名の最大長は15バイトです。

■新規ユーザをJobCenter管理者にする場合は、インストール実行者に対象のマシン上(ローカルまたはドメイン)にユーザを追加する権限が必要です。

インストール実行者にユーザを追加する権限がない場合、インストール実行中の新規ユーザ追加処理が行えずインストールに失敗します。

■JobCenterグループ名に日本語を使用することはできません。



ドメイン環境にインストールする場合は、JobCenter管理者ユーザをローカルユーザで登録するか、ドメインのユーザで登録するかを選択できます。

JobCenter管理者をローカルユーザとした場合、JobCenterで利用できるユーザはローカルユーザのみになります。

JobCenter管理者をドメインユーザとした場合、ローカルユーザ・ドメインユーザともに利用できます。

8. JobCenterが使用するIPアドレスを指定して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

使用するIPを自動的に決定する場合は[自動設定]を選択してください。

マシンが複数のIPアドレスを持っており、特定のIPアドレスで待ち受けを行う場合は[手動設定]を選択して待ち受けるIPアドレスを入力してください。

IPアドレスの指定は5つまで可能です。

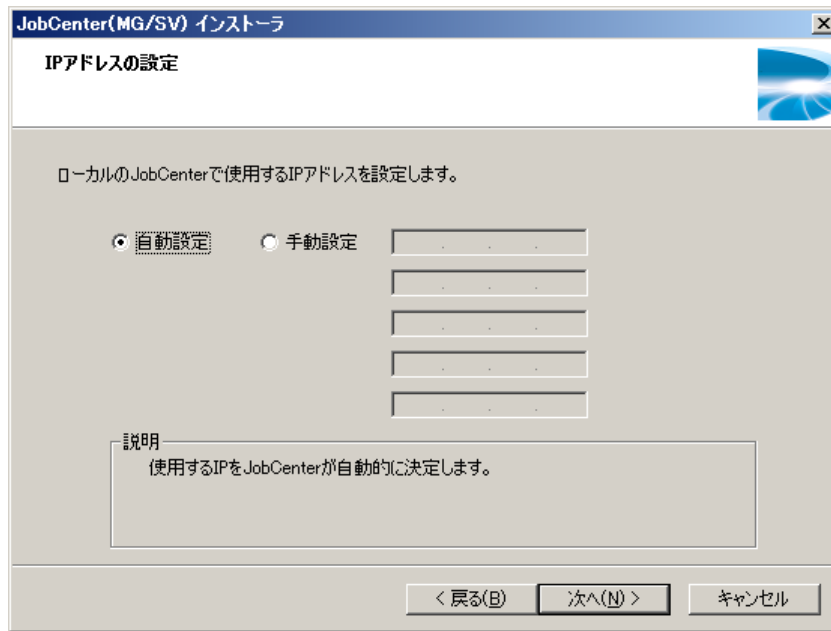


図2.16 IPアドレスの設定画面



複数のIPアドレスを持つマシンで、[自動設定]を選択した場合はOSにより決定される最も優先度の高いIPアドレスが使用されます。

9. 「8.IPアドレスの設定」画面で設定したIPアドレスの名前解決の結果が表示されます。

使用するIPアドレスとホスト名に問題がなければ、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

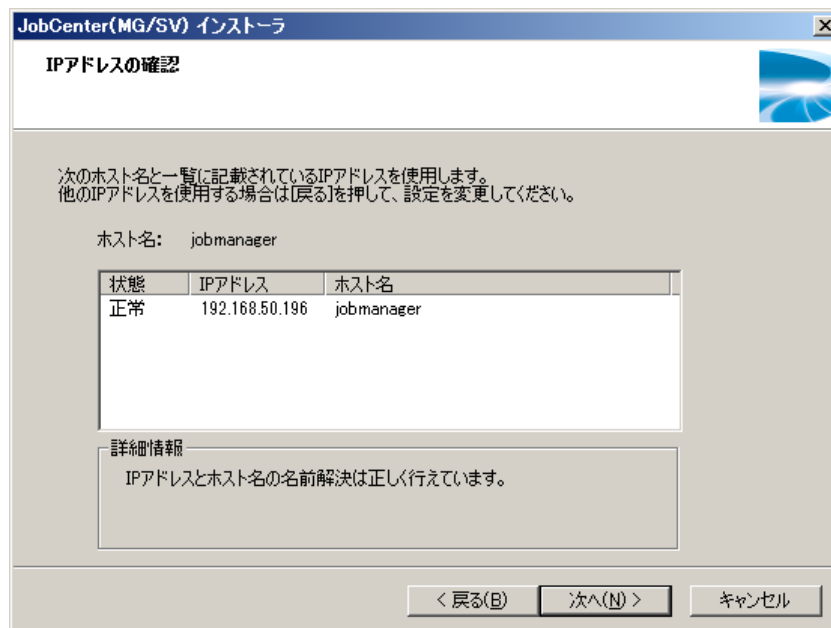


図2.17 IPアドレスの確認画面

10 JobCenterが使用するTCPポートとWindowsのファイアウォールの例外設定を指定して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

JobCenterMG/SVが使用するTCP/IPのポートをデフォルト値以外の値を使用する場合は[カスタム]にチェックを入れて、各サービスが使用するポート番号を指定してください。

TCP/IPのデフォルト値については備考を参照してください。

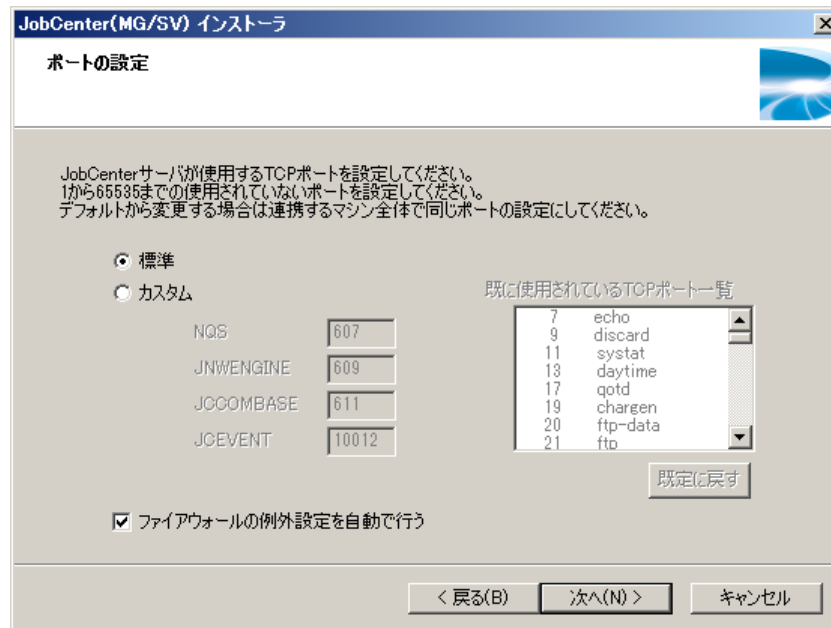


図2.18 ポートの設定画面



TCPポートのデフォルト値は次のとおりです。

設定画面の「既に使用されているTCPポートの一覧」の欄を参照して重複していないか確認してください。

NQS : 607/tcp
JNWENGINE : 609/tcp
JCCOMBASE : 611/tcp
JNWEVENT : 10012/tcp



ファイアウォールの例外設定はインストール時にアクティブなプロパティに対して設定されます。

インストール後にアクティブなプロパティが変更された場合(例えばパブリックからドメインに変更された場合)には、変更後のプロパティに対して再度ファイアウォールの例外設定を行ってください。

11NQSのマシンID(マシンID)の入力と文字コードの選択をします。

マシンIDは、JobCenterが相互にローカルサイト・クラスタサイトをそれぞれ一意に識別するためのIDです。

文字コードはUNICODEを利用しない場合には非UNICODEモードを、UNICODEを利用する場合にはUNICODEモードを選択します。

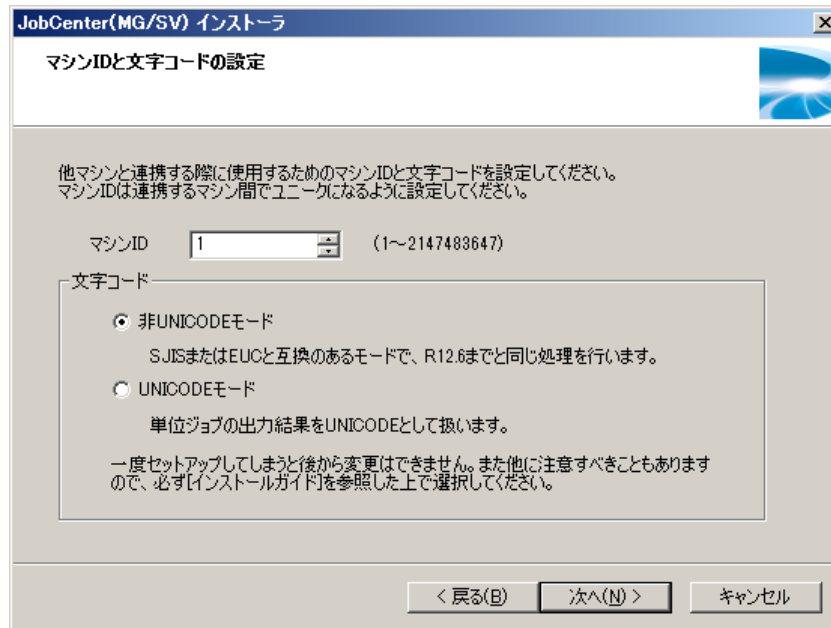


図2.19 マシンIDと文字コードの設定画面



■ JobCenterがインストールされているマシン間で、マシンIDが重複しないようにしてください。デフォルトでは「1」が設定されています。

■ 文字コードの設定は一度設定すると後から変更はできません。

UNICODEモード使用時の注意事項については「[2.1.1 注意事項の事前確認](#)」を参照してください。

12 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンをクリックするとインストールが開始されます。

設定内容を保存する場合は[保存]ボタンで設定内容を保存することができます。

保存したファイルは次回のサイレントインストールに使用することができます。

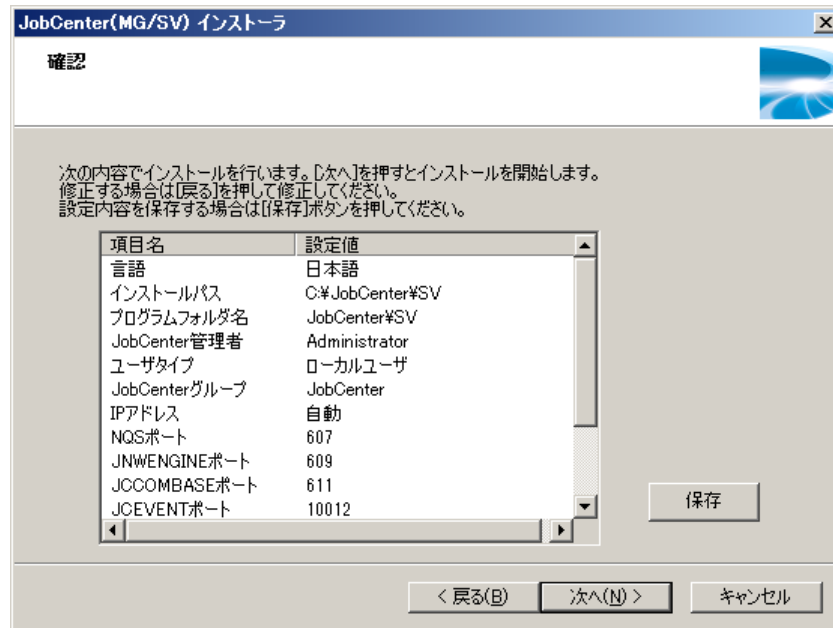


図2.20 確認画面

13 JobCenter(MG/SV)のインストールが完了すると[完了]ボタンがアクティブになりますので、[完了] ボタンをクリックしてセットアップを完了します。

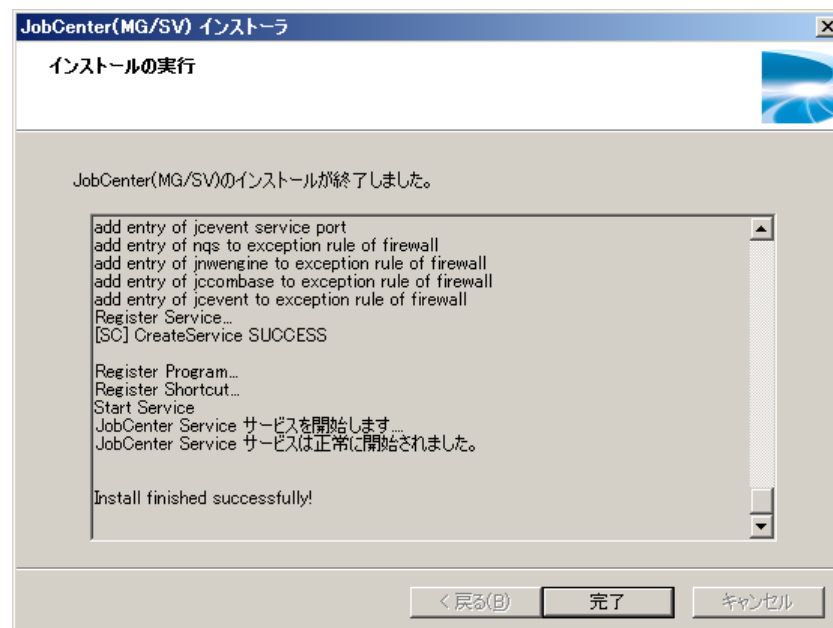


図2.21 インストールの実行画面



R12.8以降のJobCenter(MG/SV)をインストールする際、Microsoft visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージが入っていない場合は自動的にインストールが行われます。この処理には数分かかることがありますが無異常ではありません。

上記の際、【エラー:3010】が表示されJobCenter(MG/SV)のインストールに失敗する場合があります。これは頒布パッケージのインストールにシステムの再起動が

必要なためです。その場合は、システムの再起動後に再びJobCenter(MG/SV)のインストールを行ってください。

また、ドメイン環境にインストールした場合は、ユーザ追加処理に数分かかることがありますが無異常ではありません。



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事をご確認ください。

■「ファイアウォールの例外設定に失敗しました」

Windowsのファイアウォールが有効になっているか確認してください。

ファイアウォールの機能を利用する場合は、ファイアウォールの機能を有効にした後で、JobCenterで使用する(「10.ポートの設定」で設定した)ポート番号の例外登録を行ってください。

■「Cluster用DLLの配置に失敗しました」

クラスタソフトMSCSまたはMSFC用のJobCenterのDLLの置換に失敗しています。

- MSCSまたはMSFCですでにJobCenterを利用していた場合はマニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順を参照してください。
- MSCSまたはMSFCを新規に利用する場合は、次のファイルを C:\Windows\cluster 配下にコピーしてください。

```
%InstallDirectory%\lib\JobCenterCluster.dll
%InstallDirectory%\lib\JobCenterClusterEx.dll
```

- MSCSまたはMSFCを使用しない場合は本設定の必要はありません。

■「ESMPRO/ServerAgentとの連携設定に失敗しました」

ESMPRO/ServerAgentとの連携を行う場合、正しくServerAgentがインストールされているかを確認してください。

正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。

```
C:\> %InstallDirectory%\setup\amirtreg add ←
```

ESMPRO/ServerAgentを利用しない場合は設定の必要はありません。

14 JobCenter(MG/SV)のインストールが完了後、情報採取コマンド `jc_getinfo` を実行して設定データを採取してください。

```
C:\> %InstallDirectory%\bin\check\jc_getinfo ←
```



`jc_getinfo`の詳細についてはマニュアル「JobCenter コマンドリファレンス」を参照してください。

採取したデータのうち、「right.Info」ファイルをテキストエディタで開き、JobCenter管理者に必要な権限が割り当てられている事([NG]の項目がないこと)を確認してください。

[NG]の項目がある場合は、NGになっている権限をJobCenter管理者に付与してください。

これらの権限は通常、[管理ツール]→[ローカルセキュリティポリシー]から設定することができます。

(ドメイン環境の場合は、ドメインコントローラの[ドメインセキュリティポリシー]および[ドメインコントローラセキュリティポリシー]で設定されます)。

2.4.6. Windows版 (サイレントインストール)

Windows版のJobCenter MGのサイレントインストール手順を示します。

インストールについての注意事項については「[2.4.5 Windows版 \(通常インストール\)](#)」と同様ですので、そちらを参照してください。



Windows Server 2008環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して起動してください。

1. サイレントインストール用の設定ファイルを作成します。

サイレントインストール用の設定ファイルを作成するには、適当なマシンで「[2.4.5 Windows版 \(通常インストール\)](#)」の手順に従い、サイレントインストールを行うマシンの設定内容を入力します。

その後、手順12.の画面で[保存]ボタンを押すと、サイレントインストール用の設定ファイルが作成されます。



- サイレントインストール用に作成した設定ファイルは、エディタ等による内容変更を行わないでください。
- 作成したサイレントインストール用設定ファイルを他のマシンで使用したい場合は、
 - 「[2.4.5 Windows版 \(通常インストール\)](#)」の手順8.のJobCenterが使用するIPアドレス指定で、必ず[自動設定]を選択してください。
 - マシンIDの重複を防ぐため、設定ファイルを保存する度にいったん手順11.に戻ってマシンIDを変更した上で、ファイル名を変えて保存してください。
 - インストールマシンごとにJobCenter管理者ユーザやパスワード、JobCenterグループを変えて保存することはできません。(ローカルユーザで各マシンで同一アカウント名・パスワードのユーザを指定するか、ドメインアカウントをJobCenter管理者としてください)
- サイレントインストールを行うマシンのJobCenter 管理者のパスワードと、設定ファイル作成時に指定したJobCenter 管理者のパスワードは一致させる必要があります。

そのため、設定ファイルを作成した後に設定ファイルを作成したマシン、またはサイレントインストールを行うマシンのJobCenter 管理者のOS のパスワードを変更した場合は、サイレントインストールを行う前に設定ファイルを再度作成してください。

2. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットしてコマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトはWindowsの [スタート] – [プログラム] – [アクセサリ] から起動できます。

3. 次のコマンドでカレントディレクトリを変更してください。

■ IA32 環境の場合

```
C:\> Q: ␣  
Q:\> cd Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x86\script ␣
```

■x64(EM64T/AMD64) 環境の場合

```
C:\> Q: ␣  
Q:\> cd Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x64\script ␣
```



CD-ROMドライブをQ: ドライブとして説明します。

CD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

4. 次のコマンドを実行するとインストールが開始されます。

```
Q:\> install.bat <jcsetup.conf> ␣
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。



<jcsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。

5. インストール完了後は「[2.4.5 Windows版 \(通常インストール\)](#)」の「14.情報採取コマンド」と同様に情報採取を行って、JobCenter管理者に必要な権限が割り当てられているかを確認し、割り当てられていない権限がある場合は割り当ててください。

2.5. JobCenter CL/Winをインストールする

JobCenter CL/Win(ビューワ)は、JobCenter MG(マネージャ)およびJobCenter SV(サーバ)に接続するWindows GUIです。

インストールとセットアップは一連の流れで行われます。

なおCL/Winは異なるバージョン(R12.7とR12.8等)をインストール先フォルダを分けることで、混在してインストールすることが可能です。



JobCenter CL/Winのインストールを行う前に現在動作中のすべてのアプリケーションを終了してください。

ランタイムライブラリのインストールを円滑に行うために必要です。

2.5.1. 通常インストール



■ インストールを円滑に行うためにインストール前に、動作中のすべてのアプリケーションを終了してください

■ インストール先のマシンに、ローカルの Administrators グループに所属するユーザでログインしてください。

ドメイン環境でセットアップする場合も、ローカルのAdministrators グループに所属するドメインユーザでログインしてから作業を行ってください。

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットします。

Windowsの [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のファイル名を指定して [OK] ボタンを選択します。

Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\CLWIN\clsetup.exe



CD-ROMドライブをQ:ドライブとして説明します。

CD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

2. セットアップ開始画面が表示されますので、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

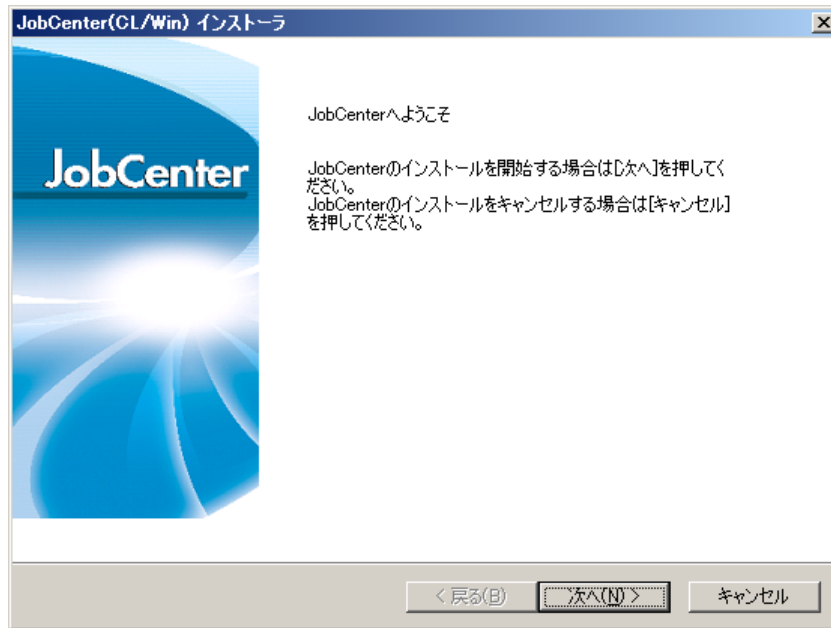


図2.22 セットアップ開始画面

3. JobCenter CL/Winで使用する言語(日本語または英語)を選択して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。



図2.23 インストール言語の設定

4. JobCenter CL/Winをインストールするフォルダを選択します。

インストール先のフォルダの初期値は、「C:\JobCenter\CL」となっています。

インストール先のフォルダを変更する場合は [参照(R)…] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストール先のフォルダを選択して [OK] ボタンをクリックします。

異なるバージョンのCL/Winを混在させる等、新規にフォルダを作成したい場合はパスを直接入力してください。

インストール先を決定後、[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

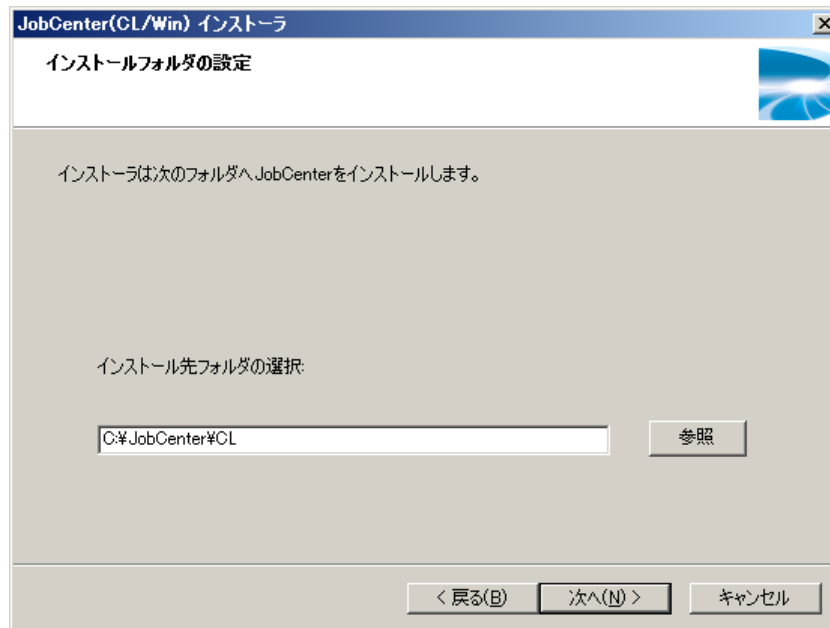


図2.24 インストールフォルダの設定画面



- インストールフォルダ名に、タブおよび「%」、「(」、「)」、「^」、「;」、「&」、「=」、「,」などの特殊文字は使用できません。
- Windows VistaまたはWindows Server 2008にインストールする場合は、「C:\Program Files\」配下にインストールすることはできません。

5. JobCenter CL/Winのショートカットを格納するフォルダを選択します。

ショートカット作成先のフォルダの初期値は、「JobCenter\Client」となっています。

作成先のフォルダを変更するには[プログラムフォルダ]に任意のフォルダ名を入力します。

異なるバージョンのCL/Winを混在させる場合は、必ずショートカット格納フォルダを分けるようにしてください。

フォルダを決定後に[次へ(N)>] ボタンをクリックします。

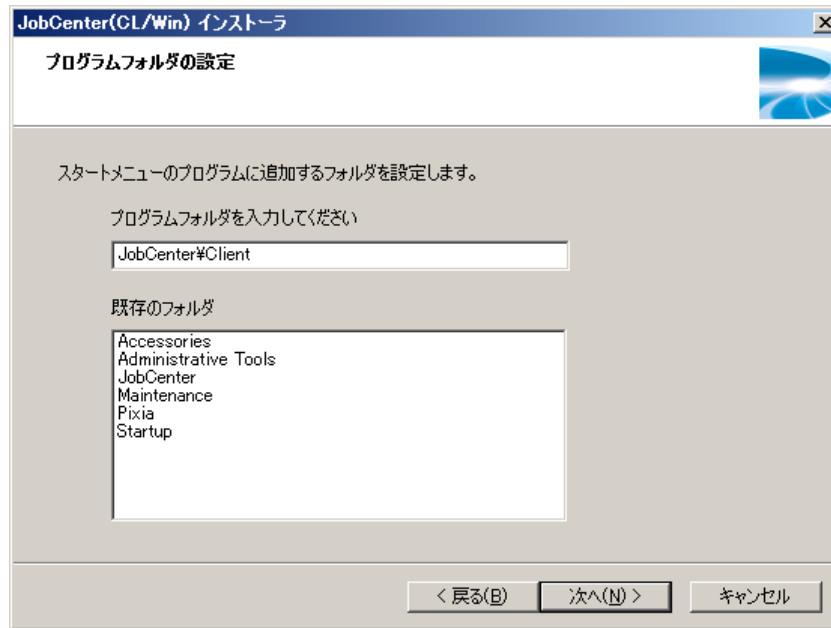


図2.25 プログラムフォルダの設定画面

6. JobCenter CL/Winを利用する際に、どのモードで利用するかを選択して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

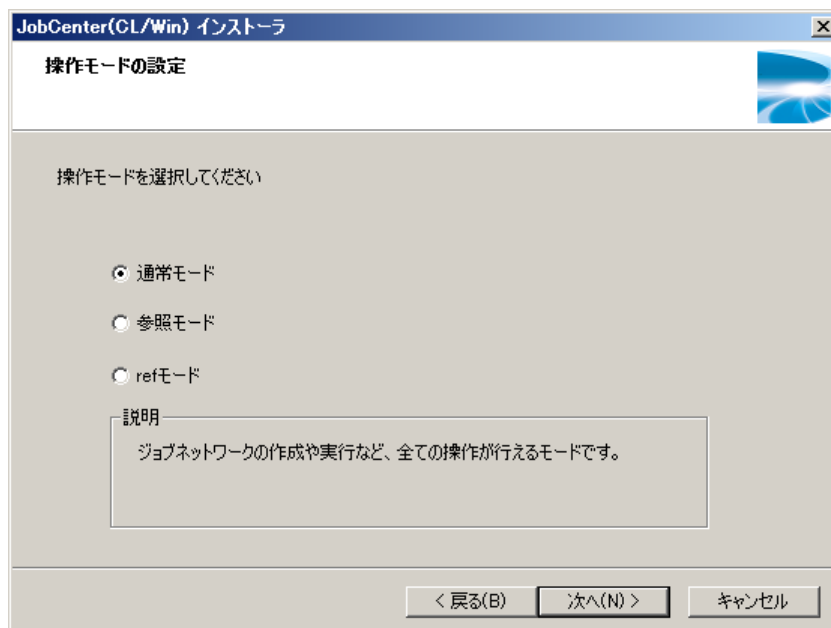


図2.26 操作モードの設定画面

表2.4 登録モードと操作可能範囲

登録モード	ジョブネットワークの作成、削除、変更	ジョブネットワークやジョブの制御
通常モード	○	○
参照モード	×	○
refモード	×	×

7. JobCenter CL/Winの起動直後にどのウィンドウを利用するか、ショートカットを選択して [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

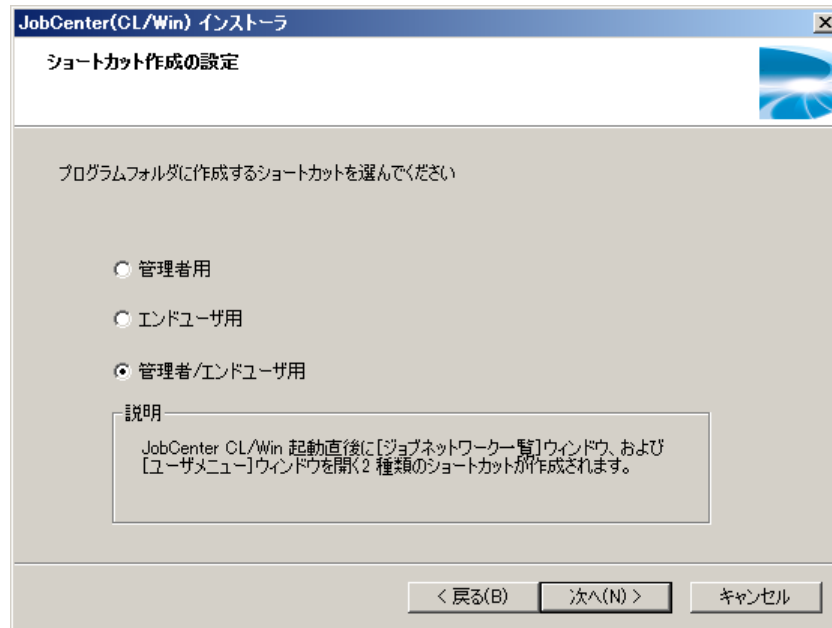


図2.27 ショートカット作成の設定画面

表2.5 利用するウィンドウと作成されるショートカット

利用するウィンドウ	作成されるショートカット
管理者用	JobCenter CL/Win起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウが開くショートカットが作成されます。
エンドユーザ用	JobCenter CL/Win起動直後に [ユーザメニュー] ウィンドウが開くショートカットが作成されます。
管理者/エンドユーザ用	JobCenter CL/Win起動直後に [ジョブネットワーク一覧] ウィンドウ、および [ユーザメニュー] ウィンドウを開く2種類のショートカットが作成されます。

8. JobCenter MG/SVと通信するためのポート(JCCOMBASE)を設定します。

サーバ側で使用するポートを変更していない場合は、[標準](611番)を選択してください。

サーバ側でポートを変更している場合は、[カスタム]を選択してポートの値を入力してください。

設定が完了したら [次へ(N)>] ボタンをクリックします。

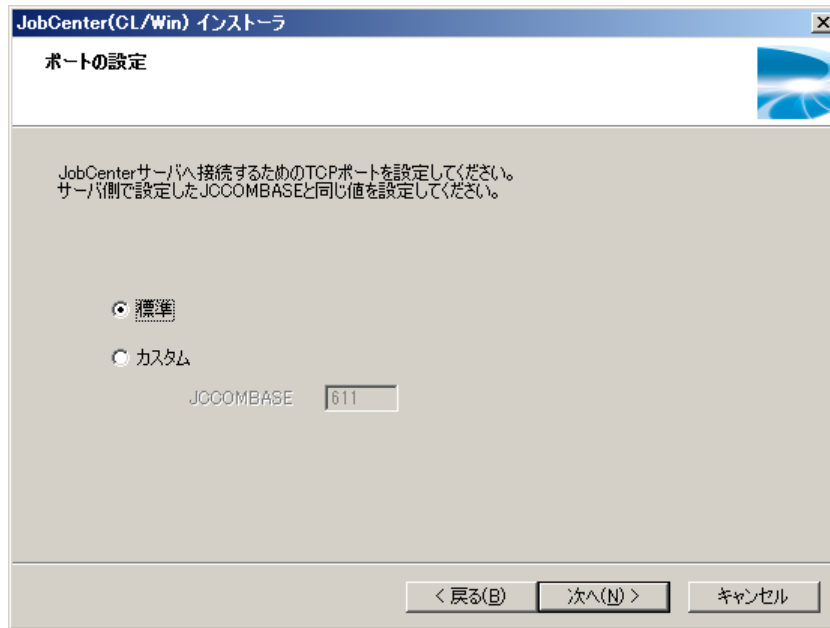


図2.28 ポートの設定画面

9. 設定した内容を確認し、問題がなければ[次へ(N)>]ボタンを押すことでインストールが開始されます。

[保存]ボタンをクリックすると、これまでの設定内容を保存できます。保存したファイルはサイレントインストールに使用することができます。

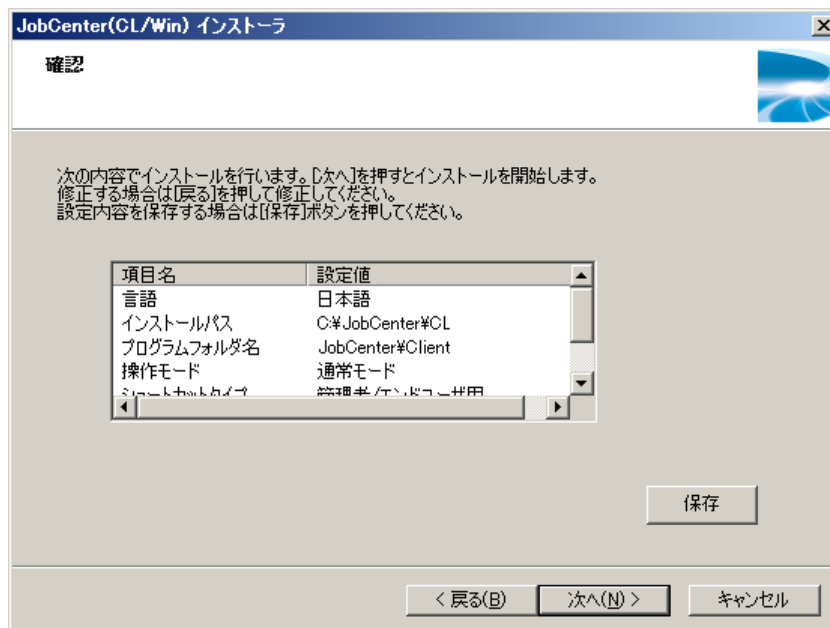


図2.29 確認画面

- 10 JobCenter(CL/Win)のインストールが完了すると[完了]ボタンがアクティブになりますので、[完了] ボタンをクリックしてセットアップを完了します。

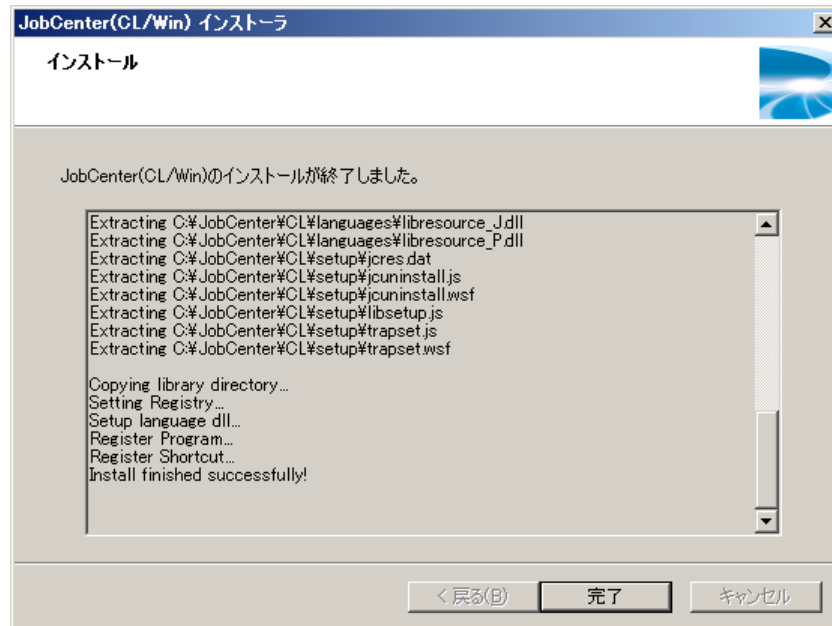


図2.30 インストール完了画面



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。

「jobcenter.defは自動でコピーされません。必要に応じて、マニュアルを参照してご自身でコピーしてください。」

警告の内容に従って次の事をご確認ください。

■この警告はUXServerManager (Viewer) がインストールされているマシンにCL/Winをインストールした際に表示されます。

■UXServerManager(Viewer)を用いて監視を行う場合は<環境構築ガイド>の「11.2.4 ビューアマシンの設定」を参照して設定を行ってください。

2.5.2. サイレントインストール

JobCenter CL/Winのサイレントインストール手順を示します。インストールについての注意事項については「[2.5.1 通常インストール](#)」と同様ですので、そちらを参照してください。



Windows Server 2008環境では、コマンドプロンプトを開く際に右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して実行してください。

1. サイレントインストール用の設定ファイルを作成します。

サイレントインストール用の設定ファイルを作成するには、適当なマシンで「[2.4.5 Windows版 \(通常インストール\)](#)」の「9. 設定内容の確認」の手順に従ってインストールする際に、サイレントインストールを行うマシンの設定内容を入力して[保存]すると、サイレントインストール用の設定ファイルが作成されます。



サイレントインストール用に作成した設定ファイルは、エディタ等による内容変更を行わないでください。

複数のマシン用に設定ファイルを作成する場合は、インストール対象のマシンに対する設定を GUI 上から行い、設定ファイルの保存を行ってください。

2. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットし、コマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトはWindowsの [スタート] – [プログラム] – [アクセサリ] から起動できます。
3. 次のコマンドでカレントディレクトリを変更してください。

```
C:\> Q: ␣  
Q:\> cd Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\CLWIN\script ␣
```



CD-ROMドライブをQ: ドライブとして説明します。

CD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

4. 次のコマンドを実行するとインストールが開始されます。

```
Q:\> install.bat <clsetup.conf> ␣
```

インストールが正しく完了すると「Install finished successfully!」と表示されます。



<clsetup.conf>には予め作成済みの設定ファイルのフルパスを入力してください。

第3章 実行環境のセットアップ(UNIX版)

JobCenterの実行環境のセットアップ(UNIX版)を行います。

なお、Windows版の場合はインストール時にセットアップも一連の流れで行われます。

3.1. JobCenterのセットアップ

3.1.1. nssetup(セットアップ用のコマンド)を実行する

rootでnssetupコマンドを実行します。

```
root> /opt/netshep/nssetup ←
```



HP-UXを高信頼性モードで運用していて、かつ以下の「[3.1.4 UMS環境を設定する](#)」で設定するJobCenter管理者ユーザ(nsumsmgr)がまだOSに追加されていない状態で上記のnssetupコマンドを実行すると、ユーザ作成に失敗してnssetupコマンドが正常に終了できなくなる場合があります。

HP-UXを高信頼性モードで運用している環境では、事前にnsumsmgrユーザをuseraddコマンドで追加してからnssetupを実行してください。

ただしLinuxの場合は次のように実行します。

```
root> /usr/local/netshep/nssetup ←
```

もし、バージョンアップ等で以前のJobCenterのスパールディレクトリが存在する場合は次のメッセージが出力されます(存在しない場合は何も出力されません)。

```
[Warning] JobCenter spool directory(/usr/spool/nqs) is already exist.
Do you use the old spool directory? [y/n](default: n)
```

既存のディレクトリを使用する場合はyを選択します(12.6までと同じ動作です)。

nを選択した場合はspoolディレクトリを消去して、新規のセットアップを開始します。

spoolディレクトリの内容に関しては、<リリースメモ>の「3.2.3.1 スパールディレクトリ」をご確認ください。

3.1.2. JobCenterのマシンIDを設定する

nssetupを実行すると、NQSディレクトリが自動的に作成されてNQSマシンIDの入力待ちの状態となります。(マシンIDは1以上2147483647以下のシステム上で一意に決まる整数)

```
Setting NQS マシンID.
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)=
```

ここで、あらかじめ決めておいたNQSマシンID(例えば1234)を入力します。

```
INPUT: Machine-id of this machine (default:1)= 1234 ←
```



JobCenterがインストールされているマシン間で、マシンID(マシンID)が重複しないようにしてください。nssetupコマンドではデフォルトで「1」が設定されています。



この段階で、セットアッププログラムがJobCenterの使用するtcpポートのエントリを/etc/servicesに追加します。607/tcp、611/tcp、10012/tcpのエントリが無い場合、次のようにポート番号を追加したことを表示します。

```
Add entry of nqs service port to /etc/services.
Add entry of jccombase service port to /etc/services.
Add entry of jcevent service port to /etc/services.
```


- JobCenterが使用するポートをすでに別のアプリケーションで利用している場合は、セットアップが終了した後で/etc/servicesを編集して、ポート番号を他の空いている番号に変更してJobCenterを再起動してください。

また、連携する他の全てのJobCenterサーバの/etc/servicesの記述も合わせて変更してください。

特にLinuxの場合はjccombaseサービスの611/tcpが既存のnpmp-guiサービスの番号と競合するため、npmp-guiサービスのエントリをコメントアウトするか、jccombaseのサービス番号を変更して対処してください。

- jccombaseサービスに割り当てる番号を変更する場合、CL/WinをインストールするWindowsマシンにおいて、次のレジストリキーのポート番号を必要に応じて611から変更してください(R12.xはセットアップしているJobCenterのバージョンに読み替えてください)。

[HKEY_LOCAL_MACHINE] - [SOFTWARE] - [NEC] - [JobCenter(CL/Win)] - [R12.x] - [ComBasePort] の値

詳細は<環境構築ガイド>の「2.1 JobCenterで使用するTCPポート」を参照してください。

3.1.3. JobCenterを使用する言語環境を選択する

OSがセットアップされている言語環境とは独立してJobCenterが動作する際の言語環境を選択することができます。このマシンで起動・設定するGUIおよびジョブネットワークは、ここで選択した文字コード以外では使用できません。

```
Select language code for JobCenter.
0 - English
1 - EUC
2 - Shift-JIS (MS-kanji)
3 - Chinese (GB18030)
4 - JP.UTF-8
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4)
```

スクリプト内で環境変数LANGの設定値を変更したり、スクリプト実行用シェルのLANG初期値が異なっていた場合、文字化けが発生する可能性がありますので注意してください。

(デフォルトで選択されている文字コードは、環境変数LANGの値によって異なります)

```
Which language code do you use in this system ? (0/[1]/2/3/4) 1 ↵
```



- 同一運用環境で、異なる言語環境でセットアップしたJobCenter MG/SVを混在して使用する場合、いくつか注意すべき事項があります。また、追加の設定が必要になる場合があります。<環境構築ガイド>の9章「日本語環境での文字コード変換」を参照してください。

Windows版MG/SVと混在する場合は<環境構築ガイド>の8章「異なる言語間における接続設定」も参照してください。

- ここで選択した文字コードでセットアップした後にジョブネットワークやスケジュール等を作成した場合、(全てアルファベットと数字を用いて設定した場合を除き)他の言語環境のJobCenterへの設定データの移行はできませんので、言語環境の選択には十分注意してください。

- JP.UTF-8(UNICODE環境)を使用する場合、いくつかの注意事項がありますので「[2.1.1 注意事項の事前確認](#)」を参照の上で設定を行ってください。

3.1.4. UMS環境を設定する

UMS環境とはJobCenterシステムを管理するための環境です。

ここではJobCenter管理者であるnsumsmgrアカウントを新たに自動的に作成するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます(ユーザ名nsumsmgrは固定であり、変えられません)。

ただし、すでにnsumsmgrアカウントが存在する場合はこのメッセージは表示されずスキップされます。

```
Start NQS daemon.
making UMS environment..
JobCenter needs new user "nsumsmgr".
Do you want to create user "nsumsmgr" automatically ? ([y]/n)
```

■管理者ユーザを作成する場合

yを入力しリターンキーを押し、セットアップを続けます。

システムの状態が調べられ、次のように出力されます(ユーザIDなどはマシンごとに異なる場合があります)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:
(1)USER ID : 738 (nsumsmgr)
(2)GROUP ID : 1 (other)
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr
SHELL : /sbin/sh
COMMENT : JobCenter manager
OK? (y/1/2/3/q) :
```

上から順に(1)ユーザID、(2)グループID、(3)ホームディレクトリ、シェル、コメントと並んでいます。このうち変更できるのはユーザID、グループID、ホームディレクトリの3つです。

修正したい箇所の()内の数字を入力してリターンキーを押すことで、修正モードに入ります。次の「[3.1.5 管理者ユーザの設定を変更する](#)」に進んでください。

現在の設定でよければyを入力してリターンキーを押して、「[3.1.6 パスワードを設定する](#)」に進んでください。

なんらかの理由で作業を中断する場合は、qを入力してリターンキーを押してください。

作業を中断した場合は、次の「管理者ユーザの設定を自動で行わない場合」に準じて、後で必ずOSコマンドでnsumsmgrアカウントを作成してパスワードを設定し、/usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvshによる環境設定を行って下さい。

■管理者ユーザの設定を自動で行わない場合

nを入力しリターンキーを押します。NIS運用されている環境にインストールする場合や、ログインシェルを/sbin/sh以外のものを指定したい等の理由により管理者ユーザの設定を自動で行わない場合には、こちらを選択してください。

次のメッセージが表示されてインストール(セットアップ)は終了となります。

```
You must create new user nsumsmgr manually,
And execute "/usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvsh" .
```



ここで管理者の設定を行わなかった場合には、インストール後に必ずOSコマンドによるnsumsmgrアカウントの作成とパスワード設定、および /usr/lib/nqs/gui/bin/mkumseenvsh の実行を行ってください。

3.1.5. 管理者ユーザの設定を変更する

■ユーザIDの変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :1 ↵
```

ここに、1を入力してリターンキーを押すと、次のようにユーザIDをたずねるメッセージが表示されます。

```
Set USER ID: 500 ↵
```

設定したいユーザIDを入れると、そのユーザIDがすでに使用されていないかを調べます。

すでに使用されていれば、次のメッセージが出力され、もう一度別のユーザIDを入力するように求められます。

```
USER ID: 500 is already in use.  
Set USER ID:
```

入力したユーザIDに問題なければ、次の画面に戻ります(ここでは、ユーザIDを738から501に変更しています)。

```
Create new user "nsumsmgr" as following:  
(1)USER ID : 501 (nsumsmgr)  
(2)GROUP ID : 1 (other)  
(3)HOME DIRECTORY : /home/nsumsmgr  
SHELL : /sbin/sh  
COMMENT : JobCenter manager  
OK? (y/1/2/3/q) :
```

■グループIDの変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :2 ↵
```

前の画面(ユーザID変更の完了画面)で2を入力し、リターンキー押すことでグループIDの修正モードに入ります。

最初に次のメッセージが表示されます。

```
OK? (y/1/2/3/q) :2  
Possible GROUP ID is following:  
root : 0  
other : 1  
bin : 2  
sys : 3  
.  
.  
Set GROUP ID:
```

グループIDは、存在しているグループIDにのみ変更できるため、現在設定されているグループIDのリストがまず表示されて、最後にグループIDの入力を求めるメッセージが出力されます。

グループIDのリストを見て、正しいIDを入力してください。

■ホームディレクトリの変更

```
OK? (y/1/2/3/q) :3 ↵
```

ユーザID変更の完了画面で3を入力して、リターンキー押すことで、設定するディレクトリを次のように聞いてきます。

```
Set directory:
```

適切なディレクトリを入力してください。すでに存在しているディレクトリを入力した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Directory "/home/nsumsmgr" exists.  
OK? (y/[n]) :
```

ここでyを入力してリターンキーを押すと、そのディレクトリに変更することができます。



- 「■管理者ユーザを作成する場合」の「(3)HOME DIRECTORY」に既存のディレクトリを指定した場合は、そのディレクトリ下の全てのファイルとディレクトリの所有者は、管理者ユーザのユーザIDとグループIDに変更されます。
- Linux機やAIX機では、ホームディレクトリを変更した場合、デフォルトのホームディレクトリも作成される場合があります。そのシステムのデフォルトのホームディレクトリを確認し、不要なnsumsmgrディレクトリが存在する場合は手動で削除してください。

3.1.6. パスワードを設定する

引き続き、管理者ユーザnsumsmgrのパスワードの設定を行います。

```
OK? (y/[n]) :y ↵
```

nsumsmgrユーザの設定変更が完了し、上記のようにyを入力してリターンキーを押すと、パスワードの設定に移ります。

次のように表示されたら、新しいパスワードを入力してください。

```
Set password of "nsumsmgr"  
New password: xxxxxx ↵
```

入力が終了すると、次のように再度パスワードの確認を求めるメッセージが表示されますので、同じパスワードを入力してください。

```
Re-enter new password: xxxxxx ↵
```



JobCenterシステムの動作にはJobCenter管理者アカウントにパスワードが設定されていることが必須です。パスワードは必ず設定してください。

パスワード設定まで終了すると、ユーザnsumsmgrのアカウントの設定が終了したことを知らせるメッセージが表示されます。

```
Complete to create new user "nsumsmgr".  
Start making ".rhosts".  
Input official host name of UMS machine:
```

3.1.7. .rhostsファイルを設定する

引き続き、.rhostsファイルにUMSが動作するホスト名(ここではマネージャ(MG)のホスト名)を登録します。

```
Input official host name of UMS machine:
```

MGとして使用する予定のホスト名を正式名称で入力してください。エイリアス名(別名)でなく、正式な名称で入力してください。

自マシンがMGの場合、もしくはスタンドアロンで運用する場合は、自マシンでhostnameコマンドを実行して表示されるホスト名を指定します。

例えばhostname.domain.co.jpと入力すると、次のような確認のメッセージが表示されます。

```
Host name is "hostname.domain.co.jp". OK? ([y]/n)
```

yを入力してリターンキーを押すと次に進みます。nを入力してリターンキーを押すとホスト名の再入力ができます。

最後に、NetShepherd管理者リストにユーザnsumsmgrを追加登録して管理者ユーザ設定は終了です。次のメッセージが表示され、セットアップは終了します。

```
Start adding to qmgr.Complete adding to qmgr
```

3.2. JobCenterセットアップ後に必要な作業

■クラスタサイトを構築する場合に必要な作業

nssetup実行後はそのままローカルサイトが起動してプロセスが常駐します。もし続けてクラスタサイトの構築(cjcmksite)を実行する場合は、一旦ローカルサイトを停止してdaemon.confにローカルサイトを「サイトモード」で起動するようlocal_daemonパラメータを事前に設定する必要があります。

詳細については <クラスタ機能利用の手引き>の「2.3.4 JobCenterの停止（運用系・待機系）」、<クラスタ機能利用の手引き>の「2.3.5 サイトの設定（運用系・待機系）」を参照してください。

■環境変数TZに関する設定

Linux、Solaris、AIX版のJobCenterは、セットアップ後に環境変数TZに関する設定を行う必要があります。詳細については<環境構築ガイド>の「14.1.5 環境変数TZに関する注意事項（Linux、Solaris、AIX版）」を参照してください。

■日本以外のタイムゾーンでJobCenterを使用する場合に必要な作業

日本以外のタイムゾーンでJobCenterを使用する場合、あるいはR12.8.2以降に追加されたマルチタイムゾーン対応機能を利用する場合は、<環境構築ガイド>の15章「日本以外のタイムゾーンで利用する」を参照して追加設定を行ってください。

■BASECenter/SystemManager(MG)と連携する場合に必要な作業

JobCenter MGのセットアップ完了後、SysetemScopeのドロップインアイコンの登録のためにssEventDを次の手順で再起動します。

```
root> /opt/0V/bin/ovstop ssEventD <
root> /opt/0V/bin/ovstart ssEventD <
```

また、JobCenter MGのパッケージを削除した場合にも、同様に再起動を行います。

■AIXでBASECenter/SystemManagerを使用してイベント連携を行う場合に必要な作業

AIXにJobCenterとBASECenter/SystemManagerがインストールされている場合、ジョブネットワークイベント送信デーモンを置き換える必要があります。

次の手順で行います。詳細については、<環境構築ガイド>の「11.2.1 BASECenter/SystemManagerを用いた連携」を参照してください。

1. JobCenterサービス停止します。

```
root> /usr/lib/nqs/nqsstop <
```

2. ファイルを退避します。

```
root> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcaster /usr/lib/nqs/jnwcaster.bk <
```



BASECenter/SystemManager以外のイベント連携を行う場合は、jnwcasterファイルを元に戻す必要があるため、必ずファイルを退避してください。

3. ファイルを置換します。

```
root> /usr/bin/cp -p /usr/lib/nqs/jnwcasterBASE /usr/lib/nqs/jnwcaster <
```

4. JobCenterサービス開始します。

```
root> /usr/lib/nqs/nqsstart <^
```

■OSのカーネルパラメータのチューニング

JobCenterで大量のジョブリクエストを短時間に生成して実行する場合、OSの様々なカーネルパラメータの上限値に抵触する可能性があります。(例えばHP-UXのnproc、maxuprc、nfile、ninode等)。

<環境構築ガイド>の17章 「システム利用資源」 に記載されたリソース使用量を参照して、集中的にジョブリクエストを実行する際に消費するリソースについて、カーネルパラメータのチューニングを行ってください。

第4章 アンインストール

LicenseManager, JobCenter MG/SVおよびJobCenter CL/Winのアンインストール方法を説明します。

4.1. LicenseManagerをアンインストールする

4.1.1. UNIX版

LicenseManagerと依存関係にあるプロダクトがある場合は先にそれをアンインストールしてください。

JobCenterもLicenseManagerに依存しているので、LicenseManagerをアンインストールする場合にはJobCenterを先にアンインストールしてください。



依存関係にあるパッケージを削除せずにLicenseManagerをアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがあります。

ログイン名"root"でログインします。

```
login:root ↵
```

4.1.1.1. HP-UX版

1. 次のコマンドを実行します。本パッケージが削除されます。

```
root> /usr/sbin/swremove NECWSLM ↵
```

コマンドが正常終了したのを確認してください。パッケージの削除は正常に終了しています。

2. 確認のため次のコマンドを実行します。

```
root> /usr/sbin/swlist NECWSLM ↵
```

3. 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
Software "NECWSLM" was not found on host "hostname:/"
```

4.1.1.2. Solaris版

1. 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/pkgrm NECWSLM ↵
```

パッケージの削除実行中に確認を求めるメッセージが表示されますが、いずれもyを入力してください。

2. 次のメッセージが表示されればパッケージの削除は正常に終了しています。

```
Removal of <NECWSLM> was successful.
```

3. 確認のため次のコマンドを実行してください。

```
root> /bin/pkginfo NECWSLM ↵
```

4. 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
ERROR: information for "NECWSLM" was not found
```

4.1.1.3. Linux版

1. 次のコマンドを実行してください。本パッケージが削除されます。

```
root> /bin/rpm -e NECWSLM ←
```

2. 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
*****now removing *****
Uninstallation was successful.
```

4.1.2. Windows版

LicenseManagerと依存関係にあるパッケージがある場合は先にそれをアンインストールしてください。

JobCenterもLicenseManagerに依存しているので、LicenseManagerをアンインストールする場合にはJobCenterを先にアンインストールしてください。



依存関係にあるパッケージを削除せずにLicenseManagerをアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがありますので事前確認をお願いします。

次の手順に従ってLicenseManager(MainPart)パッケージの削除を行います。

1. マシンを立ち上げAdministrator権限のあるユーザでログインしてください。
2. Windowsの[スタート] – [コントロールパネル]で「プログラムの追加と削除」を実行し、次の画面を表示させます。[削除] ボタンをクリックします。

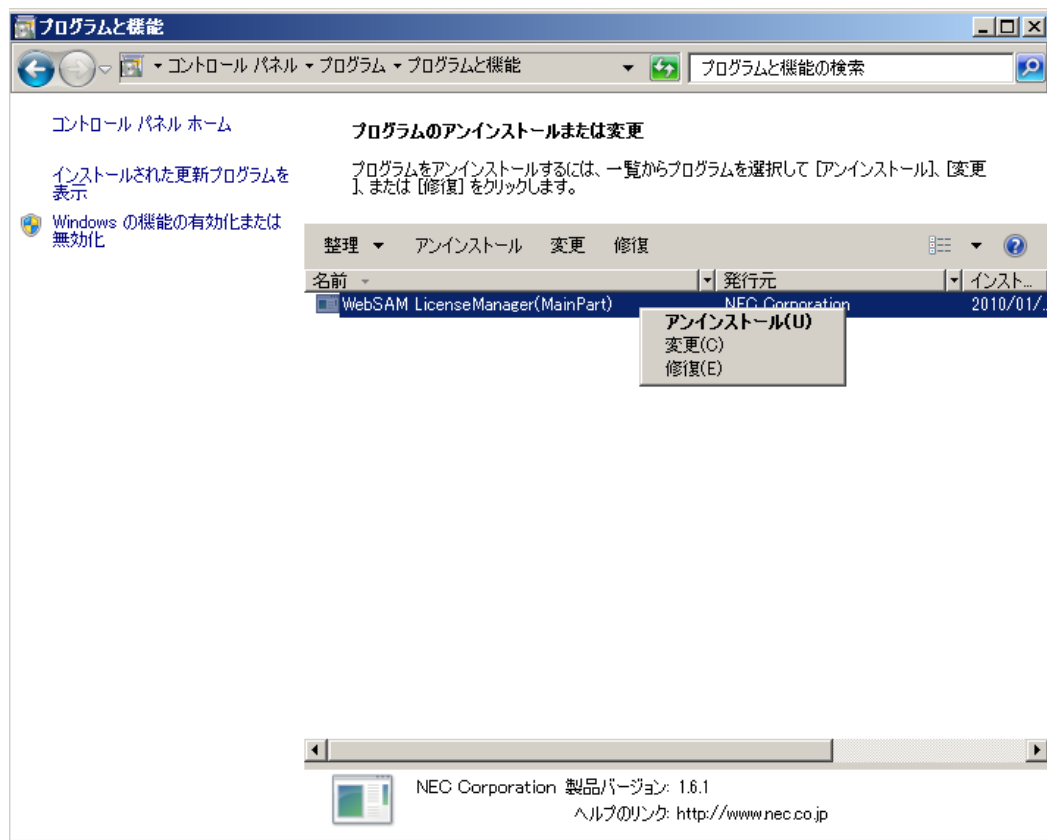


図4.1 パッケージ削除画面

3. 次の画面が表示されます。[はい] ボタンをクリックして、パッケージの削除を行います。

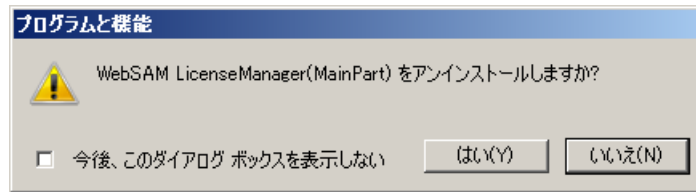


図4.2 パッケージ削除確認画面

4. 「プログラムの追加と削除」画面を再度表示し、「WebSAM LicenseManager(Main Part)」のエントリーが存在しなければパッケージの削除は完了です。

4.2. JobCenter MG, JobCenter SVをアンインストールする

4.2.1. UNIX版

4.2.1.1. パッケージを削除する

表4.1「削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンドOS別一覧」を参考に、JobCenterのパッケージを削除してください。

削除するパッケージはOSごとにJobCenterの種別(MGやSV)によって異なりますので、実際にインストールされているパッケージ名を確認してから削除してください。

パッケージ名の確認方法は「6.1 UNIX版」を参照してください。

表4.1 削除が必要なパッケージ名とパッケージ削除コマンドOS別一覧

OS	パッケージ名(12.6.x以前)	パッケージ名(12.7以降)	パッケージ削除コマンド
HP-UX	NECSSJBmg (MG) NECSSJBag (SV) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	swremove <pkgname>
Solaris	NECSSJBmg (MG) NECSSJBag (SV) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	pkgrm <pkgname>
AIX	NECSSJBag (MG/SV共通) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	installp -u <pkgname>
Linux	NECSSJBag (MG/SV共通) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	rpm -e <pkgname>



■累積パッチのパッケージは、MG/SV本体のパッケージに依存関係があります。従って、累積パッチを適用しているシステムでパッケージを削除する際は、MG/SV本体のパッケージよりも累積パッチパッケージを先に削除する必要があります。

■R12.7以前のHP-UXおよびSolarisでは、MGマシンにはMGとSVの両方のパッケージがインストールされています。その場合MGパッケージがSVパッケージに依存していますので、MGから先にアンインストールしてください。

4.2.1.2. NQS関連のデータを削除する

NQS関連のデータを削除する場合は、パッケージ削除を行った後に次のディレクトリを削除してください。

```
/usr/spool/nqs
```

4.2.1.3. ユーザ関連のデータを削除する

ユーザ関連のデータ(ローカルサイト)を削除する場合は、次のディレクトリとシンボリックリンクファイルを削除してください。

```
<ユーザのホームディレクトリ>/NetShepEUI
```

```
/usr/spool/nqs/gui/ユーザ名
```

4.2.1.4. クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のディレクトリとシンボリックリンクファイルを削除してください。

```
<クラスタDBパス>/nqs
/usr/spool/nqs/<リロケータブルIP(16進表記)>
```

クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

4.2.2. Windows版

以下の操作はAdministrator権限のあるユーザでログインしてから実施してください。



%InstallDirectory%はJobCenter本体のインストールディレクトリを表します。(既定値はC:\JobCenter\SV)

4.2.2.1. パッケージを削除する

JobCenterのバージョンによってパッケージの削除方法が異なります。

1. JobCenter(MG/SV)R12.8以降の場合

Windowsの [スタート] – [コントロールパネル] – [プログラムの追加と削除] を選択して表示される画面でJobCenter(MG/SV) R12.xを選択して、[変更と削除] をクリックします。(R12.xには対象のJobCenterのバージョンを当てはめてください)。

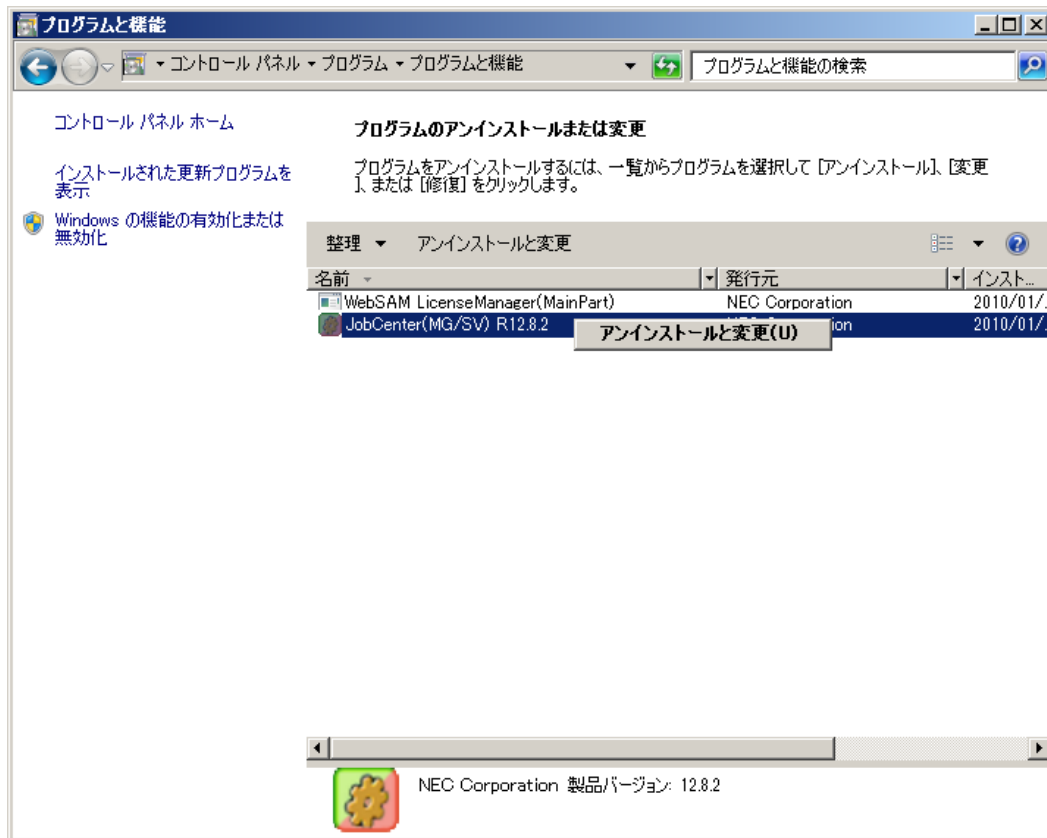


図4.3 パッケージ削除画面

2. JobCenter(SV/NT)R7.1以降R12.7までの場合

Windowsの [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。



Windows OSの「プログラムの追加と削除」からのアンインストールからは、正常にアンインストールできません。必ず上記のJobCenterの [アンインストール] メニューでアンインストールしてください。

JobCenter SVのアンインストールでは、スタートメニューの [JobCenter] グループを削除できない場合があります。

アンインストール後、新たなバージョンをインストールしない場合には、別途スタートメニューの [JobCenter] を削除してください。

3. JobCenter(SV/NT)R4.1以前(NetShepherd系)の場合

アンインストール対象のJobCenter(またはNetShepherd)のインストールメディアに含まれている、JobCenterのパッケージ削除のコマンドsvuninst.exeを実行します。

4.2.2.2. NQS関連のデータを削除する

NQS関連のデータ(ユーザ設定コンフィグファイルを含む)を削除する場合は、次のディレクトリごと削除してください。(アンインストール時点で削除されない場合のみ)

1. JobCenter(MG/SV)R12.8以降の場合

%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\spool\imap
%InstallDirectory%\spool\new
%InstallDirectory%\spool\private
%InstallDirectory%\spool\sap
%InstallDirectory%\spool\scripts
%InstallDirectory%\spool\work

2. JobCenter(MG/SV)R12.7以前の場合

%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\imap
%InstallDirectory%\spool
%InstallDirectory%\jnwexe\spool\sap.d

4.2.2.3. 設定関連のデータを削除する

ユーザが設定したコンフィグデータを削除する場合は、次のディレクトリごと削除してください。(アンインストール時点で削除されない場合のみ)

1. JobCenter(MG/SV)R12.8以降の場合

%InstallDirectory%\spool\conf

2. JobCenter(MG/SV)R12.7以前の場合

%InstallDirectory%\etc

4.2.2.4. ユーザ関連のデータその他を削除する

ユーザ作成データ(ジョブネットワークやスケジュール、稼働日カレンダー等)を削除する場合は、次のディレクトリごと削除してください。(アンインストール時点では削除されず残されます)

1. JobCenter(MG/SV)R12.8以降の場合

```
%InstallDirectory%\spool\users\<ユーザ名>
%InstallDirectory%\spool\wkcal.d
```

2. JobCenter(MG/SV)R12.7以前の場合

```
%InstallDirectory%\jnwexe\spool\<ユーザ名>
%InstallDirectory%\jnwexe\spool\cmd.d.C
%InstallDirectory%\jnwexe\spool\Sample.d
%InstallDirectory%\jnwexe\spool\wkcal.d
```

4.2.2.5. クラスタ関連のデータを削除する

クラスタ関連のデータを削除する場合は、次のようにして削除してください。

1. JobCenter(MG/SV)R12.8以降の場合

- [サーバの環境設定]の[サイト]一覧から目的のクラスタサイトを右クリックして[削除]を選択して、[サイトの削除]ダイアログで[削除]を選択

2. JobCenter(MG/SV)R12.7以前の場合

- クラスタDBをディレクトリごと削除



クラスタ関連のデータベースを削除すると、同時にデータベース配下のユーザ関連データも削除することになりますのでご注意ください。

4.2.2.6. レジストリ関連のデータを削除する

レジストリ関連のデータを削除する場合は、次の手順で行います。

1. Windowsの[スタート] – [ファイル名を指定して実行]で表示されるダイアログに「regedit」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。レジストリエディタの画面が表示されます。
2. レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\NetShepherd/SV
```

4.2.2.7. 環境変数の設定を削除する

JobCenterをクラスタで使用していた場合、環境変数NQS_SITEの設定の有無を確認し、NQS_SITEが設定されていた場合は削除してください。



- JobCenterアンインストール時にファイルが使用中である等の理由により、「Uninstall finished. Please reboot OS to complete uninstallation.」のメッセージが表示されて%InstallDirectory%配下の

binとlibが削除されず残ることがあります。その場合はOS再起動後に別途エクスペローラー等で削除してください。

- JobCenterをアンインストールした場合でも「Microsoft Visual C++ 2008 SP1再頒布パッケージ」は残ります。

不要な場合は「プログラムの追加と削除」(Windows 2003等の場合)から以下のパッケージを削除してください。

- Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable - x86 9,0,30729.17

4.3. JobCenter CL/Winをアンインストールする

4.3.1. パッケージを削除する

以下の操作はAdministrator権限のあるユーザでログインしてから実施してください。

Windowsの [スタート] – [コントロールパネル] – [プログラムの追加と削除] を選択して表示される画面でJobCenter(CL/Win)を選択して、[変更と削除] をクリックします。

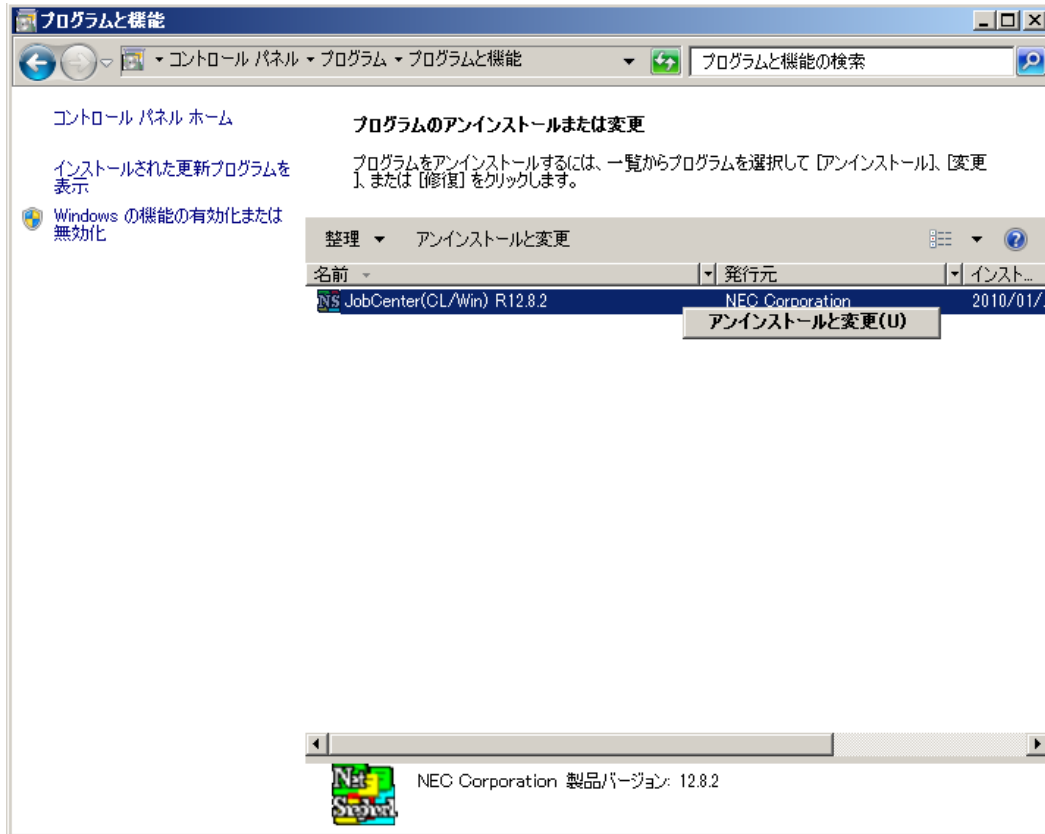


図4.4 パッケージ削除画面

4.3.2. レジストリ関連のデータを削除する

CL/Winアンインストール後も以下のレジストリ関連データが残っていた場合、次の手順で削除します。(レジストリにデータが残っていない場合は、削除操作は不要です)

1. Windowsの [スタート] – [ファイル名を指定して実行] で表示されるダイアログに「regedit」と入力し [OK] ボタンをクリックします。

レジストリエディタの画面が表示されます。

2. レジストリエディタの左の画面で次のキーを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューから削除を選択します(R12.xには対象のJobCenterのバージョンを当てはめてください)。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\JobCenter(CL/Win)\R12.x

第5章 バージョンアップ

JobCenterのバージョンアップ方法を説明します。なお、Windowsのクラスタ環境のバージョンアップについては「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」も参照して下さい。

5.1. UNIX版



■アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし実行中のリクエストやトラッカは引き継げません。

また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。

NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は「[5.1.2 NQS関連のデータ引き継ぎ](#)」を参照してください。

■バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラッカが含まれている場合、上記のとおりトラッカは引き継げませんのですぐに削除してください。

■R12.5以降には共有ジョブネットワークがありません。

したがってR12.4.x以前のJobCenterからR12.5以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。

■一度バージョンアップを行うと、バージョンダウンを行ってもユーザデータが互換性を持たず正常に動作しない場合があります。バージョンアップを行う前にエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得するようにしてください。

5.1.1. バージョンアップ

新しいバージョンのJobCenterをインストールする前に古いバージョンのJobCenterのパッケージを削除する必要があります。

パッケージの削除方法については「[4.2.1.1 パッケージを削除する](#)」を参照してください。

5.1.2. NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行います。

1. JobCenterをnqsstopで停止します。(クラスタ環境は `cjcpw -stop <サイト名>` で停止します)

```
root> /usr/lib/nqs/nqsstop ◀
```

2. 次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

```
/usr/spool/nqs/nmap
/usr/spool/nqs/private
```

3. 旧バージョンのJobCenterのパッケージを削除します。削除方法に関しては「[4.2.1 UNIX版](#)」を参照してください。

なお「(2)NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。

4. 新しいバージョンのJobCenterをインストールします。nssetupにより実行環境を一旦セットアップします。

```
root> /opt/netshp/nssetup ◀
```

その後、nqstopでJobCenterを停止します。

```
root> /usr/lib/nqs/nqstop <
```

5. あらかじめ1.でバックアップしておいた /usr/spool/nqs/nmap、/usr/spool/nqs/private 配下のファイルをリストアします。

ただし、次のファイルがあった場合はリストア後に削除します。（削除しなかった場合、NQSデータベースの整合性が保証されず正常動作できなくなります）

```
/usr/spool/nqs/private/root/transfile
/usr/spool/nqs/private/root/control/(ディレクトリ)/配下の全ファイル
/usr/spool/nqs/private/root/data/(ディレクトリ)/配下の全ファイル
/usr/spool/nqs/private/root/tracking/配下の全ファイル
```

6. nqstartでJobCenterを起動します。（クラスタ環境は cjcpw <サイト名> <DBパス>で起動します）

```
root> /usr/lib/nqs/nqstart <
```

7. 旧バージョンでJobCenterを利用していた全てのユーザについて、CL/Winで接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenterのバージョンアップ作業は終了です。



- 自ホスト名を変更する場合は、ジョブネットワークの定義情報のみ引き継ぐことができます。引継ぎの方法については<環境構築ガイド>の13章 「環境移行（テスト環境から本番環境への移行）」 を参照してください。
- バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。
- バージョンアップ後にCL/Winによる接続を行わないユーザについては、新しいバージョンのMG/SVがJobCenterユーザとして認識できない場合があります。そのためCL/Winによる接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

5.2. Windows版



■アンインストール時、ユーザが作成したジョブネットワークの定義データは引き継がれます。ただし、実行中のリクエストやトラッカは引き継げません。

また、独自に作成していたキューや、リクエスト転送先のマシン情報、ユーザマッピングなどのNQS関連の設定値はすべて削除されますので、新しいバージョンをインストールしたあと再設定を行う必要があります。

NQS関連の設定も引き継ぎたい場合は「[5.2.2 NQS関連のデータ引き継ぎ](#)」を参照してください。

■バージョンアップの後、引き継がれたユーザデータに大量の未アーカイブ状態のトラッカが含まれている場合、上記のとおりトラッカは引き継げませんのですぐに削除してください。

■R12.5以降には共有ジョブネットワークがありません。

したがってR12.4.x以前のJobCenterからR12.6以降にバージョンアップする際には、前バージョンの共有ジョブネットワーク中の全ジョブネットワークを、適当なユーザのジョブネットワークグループに移動してからバージョンアップしてください。

■MSFC(MSCS)クラスタ環境の場合、前のバージョンを削除して新しいバージョンをインストールする際に、特別な手順で行う必要があります。

詳細については、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」を参照してください。

■前バージョンのJobCenterをクラスタで運用していた場合、アンインストール後に環境変数NQS_SITEの設定の有無を確認し、設定されていた場合は削除してください。

環境変数NQS_SITEが設定されていると、新しいバージョンのJobCenterのセットアップは正常に実行できません。

■R12.8より各ファイルパスが変更されたため、バージョンアップ時にはJobCenter配下のディレクトリの再構築が行われます。ディレクトリの再構築が完了すると以前のディレクトリ構成に戻すことはできません。そのため、一度バージョンアップを行うとバージョンダウンを行うことができなくなります。

バージョンアップを行う前にバックアップを取得するようにしてください。バックアップ対象のファイルは保守窓口より提供しているバックアップ手順書を参照してください。(ユーザデータについてはエクスポートによりユーザデータのバックアップを取得するようにしてください)

なおクラスタ環境の場合、クラスタサイトのデータベースのバージョンアップも必要になります。詳細は「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」を参照して下さい。

5.2.1. バージョンアップ

旧バージョンのJobCenterのバージョンによってバージョンアップ方法が異なります。

バージョンアップ実行後は、Windowsの[スタート] – [すべてのプログラム] – [JobCenter] – [SV] – [サーバの環境設定] から[ユーザ]を選択して、各ユーザのパスワード欄が「OK」となっているのを確認してください。

「Not Set」となっているユーザが存在したら、ユーザ名およびパスワードを再入力してパスワード欄が「OK」となるのを確認してください。



JobCenter(SV/NT)R5.1～R6.1はリリースしておりません。

5.2.1.1. JobCenter(SV/NT)R4.1以前(NetShepherd系)の場合

1. 旧バージョンのJobCenter(またはNetShepherd)のインストールメディアに含まれているJobCenterのパッケージ削除のコマンドsvuninst.exeを実行します。
2. パッケージ削除後、新しいバージョンのJobCenterをインストールします。

5.2.1.2. JobCenter(SV/NT)R7.1～R12.1の場合

1. Windowsの [スタート] - [すべてのプログラム] - [JobCenter] - [SV] - [アンインストール] を実行します。
2. パッケージ削除後、新しいバージョンのJobCenterをインストールします。

5.2.1.3. JobCenter(SV/NT)R12.2以降の場合



本作業(アップグレード)を行う前に必ず次の作業・確認を行ってください。

1. JobCenterサービスおよびクラスタサイトの停止
2. <JobCenterMG/SVインストールディレクトリ>配下のファイルにアクセスしていないことの確認
3. JobCenterMG/SVをインストールしたドライブに十分な空き容量(インストール済みのJobCenterMG/SVが使用しているサイズ以上)があることの確認

1. JobCenterメディア(CD-ROM)をセットし、Windowsの [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。

次のファイル名を指定して [OK] ボタンを選択します。

■IA32用の32ビットネイティブバイナリの場合

Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x86\jcsetup.exe

■x64(EM64T/AMD64)用の64ビットネイティブバイナリの場合

Q:\PACKAGE\JB\WINDOWS\MGSV\x64\jcsetup.exe



CD-ROMドライブをQ:ドライブとして説明します。

CD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

2. アップグレード確認で[はい]ボタンを押すと処理を開始します。

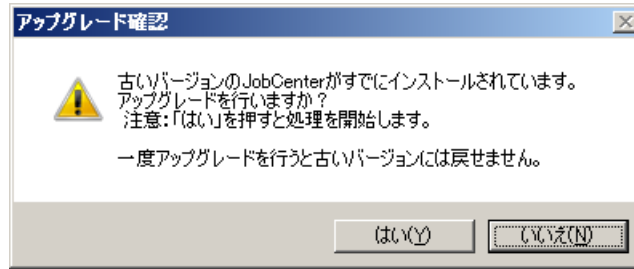


図5.1 アップグレード画面

3. JobCenter(MG/SV)のアップグレードが正常に完了すると[完了]ボタンがアクティブになりますので、[完了] ボタンをクリックしてセットアップを完了します。

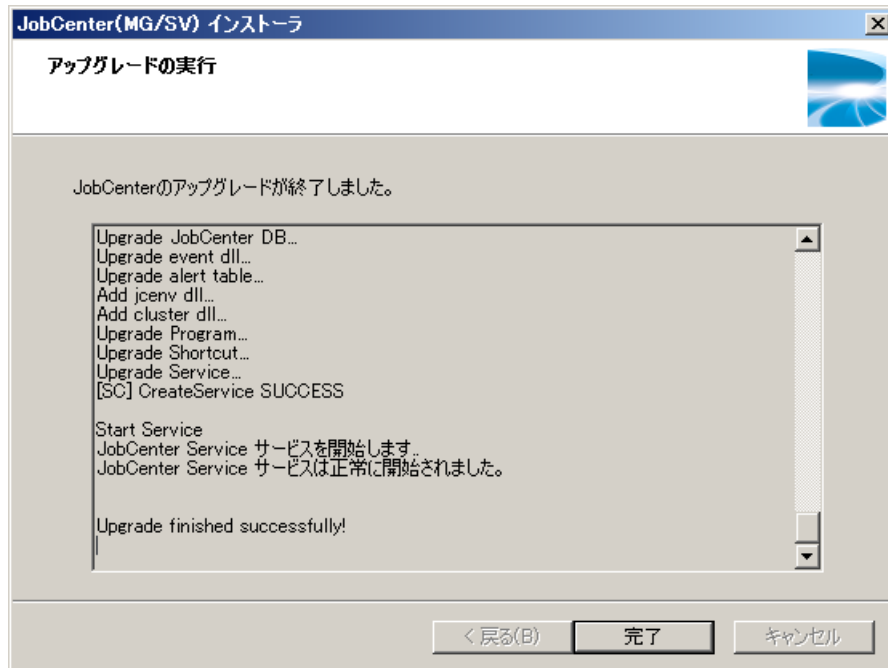


図5.2 インストール完了画面

また、アップグレードが完了すると、以下のようにアップグレード前のディレクトリのバックアップのパスが表示されます。

正常動作することを確認の上、バックアップディレクトリを削除してください。

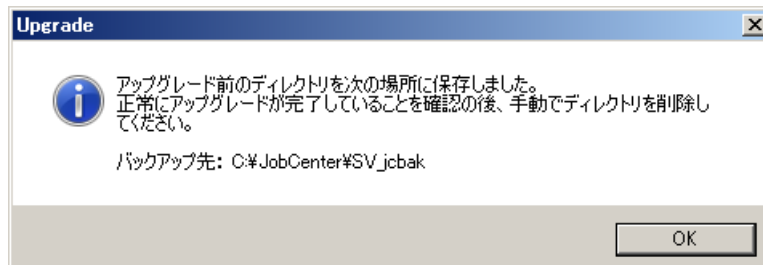


図5.3 アップグレード時の注意事項表示画面



インストール完了時に以下の警告メッセージが表示されることがあります。警告の内容に従って次の事を確認して対処してください。

■「Cluster用DLLの配置に失敗しました」

クラスタソフトMSCSまたはMSFC用のJobCenterのDLLの置換に失敗しています。

- MSCSまたはMSFCですでにJobCenterを利用していた場合は、マニュアル「クラスタ機能利用の手引き」のバージョンアップ手順を参照してください。
- MSCSまたはMSFCを新規に利用する場合は次のファイルを「C:\Windows\cluster」配下にコピーしてください。

```
%InstallDirectory%\lib\JobCenterCluster.dll
%InstallDirectory%\lib\JobCenterClusterEx.dll
```

- MSCSまたはMSFCを使用しない場合は、上記の設定の必要はありません。

■「ESMPRO/ServerAgentとの連携設定に失敗しました」

ESMPRO/ServerAgentとの連携を行う場合、正しくServerAgentがインストールされているかを確認してください。

正しくインストールされていることを確認後、次のコマンドを実行してください。

```
C:\> %InstallDirectory%\setup\amirtreg del <
C:\> %InstallDirectory%\setup\amirtreg add <
```

ESMPRO/ServerAgentを利用しない場合は設定の必要はありません。

5.2.2. NQS関連のデータ引き継ぎ

NQS関連のデータを引き継ぎたい場合は、次の手順で作業を行ってください。



■ %InstallDirectory%はJobCenter本体のインストールディレクトリを表します。(既定値はC:\JobCenter\SV)

■ クラスタ環境の場合、サイトデータベースのバージョンアップが必要になります。詳細は「JobCenter クラスタ機能利用の手引き」を参照して下さい。

1. コントロールパネルのサービスから、JobCenter関連のサービスを次の順番で停止させます。

バージョンによっては存在していないサービスもあります。その場合、そのサービスの停止はスキップして次のサービスを停止させてください。

```
Sclaunch Service
Comagent Service
jnwengine service
NetShepherd
```

2. 次のディレクトリ配下のファイルをバックアップします。

```
%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\nmap
%InstallDirectory%\spool\private\root
```

3. 旧バージョンのJobCenterのパッケージを削除します。削除方法に関しては「[4.2.2 Windows版](#)」を参照してください。

なお「4.2.1.2 NQS関連のデータを削除する」は必ず実行してください。

4. 新しいバージョンのJobCenterをインストール後、マシンを再起動します。
5. マシン再起動後、コントロールパネルのサービスから、次のJobCenter関連サービスを停止します。

JobCenter Service

6. バックアップしておいたファイルをそれぞれ次の場所にリストアします。

バックアップ元	リストア先
%InstallDirectory%\etc	%InstallDirectory%\etc
%InstallDirectory%\nmap	%InstallDirectory%\spool\nmap
%InstallDirectory%\spool\private\root	%InstallDirectory%\spool\private\root

7. 次のファイルがあった場合はリストア後に削除してください。（削除しなかった場合、NQSデータベースの整合性が保証されず正常動作できなくなります）

%InstallDirectory%\spool\private\root\transfile

%InstallDirectory%\spool\private\root\control\（ディレクトリ）\配下の全ファイル

%InstallDirectory%\spool\private\root\data\（ディレクトリ）\配下の全ファイル

%InstallDirectory%\spool\private\root\tracking\配下の全ファイル



上記の（ディレクトリ）という表記は、そこに存在するすべてのディレクトリを指します。「ディレクトリを削除する」という意味ではないので注意してください。内部のファイルのみ削除してください。

8. コントロールパネルのサービスから、次のJobCenter関連サービスを起動します。

JobCenter Service

9. 旧バージョンでJobCenterを利用していた全てのユーザについて、CL/Winで接続して正常にログインできることを確認してください。

以上で、JobCenterのバージョンアップ作業は終了です。



■自ホスト名を変更する場合、ジョブネットワークの定義情報に関してはjnwop chenvコマンドで変換することによりデータを引き継ぎますが、NQS関連データの引き継ぎはできません。

このような場合は「5.2.1 バージョンアップ」の手順に従ってバージョンアップしてください。

■バージョンダウンの場合、設定内容の引き継ぎはできません。事前にバックアップしておいたファイルのリストアで対応する必要があります。

■バージョンアップ後にCL/Winによる接続を行わないユーザについては、新しいバージョンのMG/SVがJobCenterユーザとして認識できない場合があります。そのためCL/Winによる接続確認を全ての利用ユーザについて必ず実施してください。

第6章 バージョンの確認方法

JobCenterのバージョン確認方法は以下のとおりです。

6.1. UNIX版

UNIX版の製品バージョンは、コマンドで確認します。

6.1.1. JobCenter MG/SV

以下の表に示すコマンドでパッケージのバージョンを確認します。

12.7以降と12.6.x以前はパッケージ名が異なります。12.7以降は全てMG/SV共通のパッケージ名に統一されています。

なおパッチが適用されている環境では、パッチパッケージのバージョン番号も必ず確認するようにしてください。

表6.1 JobCenterのバージョン確認コマンドOS別一覧

OS	パッケージ名(12.6.x以前)	パッケージ名(12.7以降)	バージョン確認コマンド
HP-UX	NECSSJBmg (MG) NECSSJBag (SV) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	swlist <pkgname>
Solaris	NECSSJBmg (MG) NECSSJBag (SV) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	pkginfo -l <pkgname>
AIX	NECSSJBag (MG/SV共通) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	lspp -L NECSSJB*
Linux	NECSSJBag (MG/SV共通) NECSSJBpt (累積パッチ)	NECJCpkg (MG/SV共通) NECJCpt (累積パッチ)	rpm -q <pkgname>

6.2. Windows版

Windows版の製品のバージョンの確認は、GUIで行います。

6.2.1. JobCenter SV

1. Windowsの [スタート] から、 [すべてのプログラム] – [JobCenter] – [SV] – [サーバの環境設定] を実行します。
2. [JobCenterサーバの環境設定] ダイアログが表示されたら、[ヘルプ] – [JobCenter環境設定のバージョン情報] ボタンをクリックすると、バージョン情報を確認することができます。

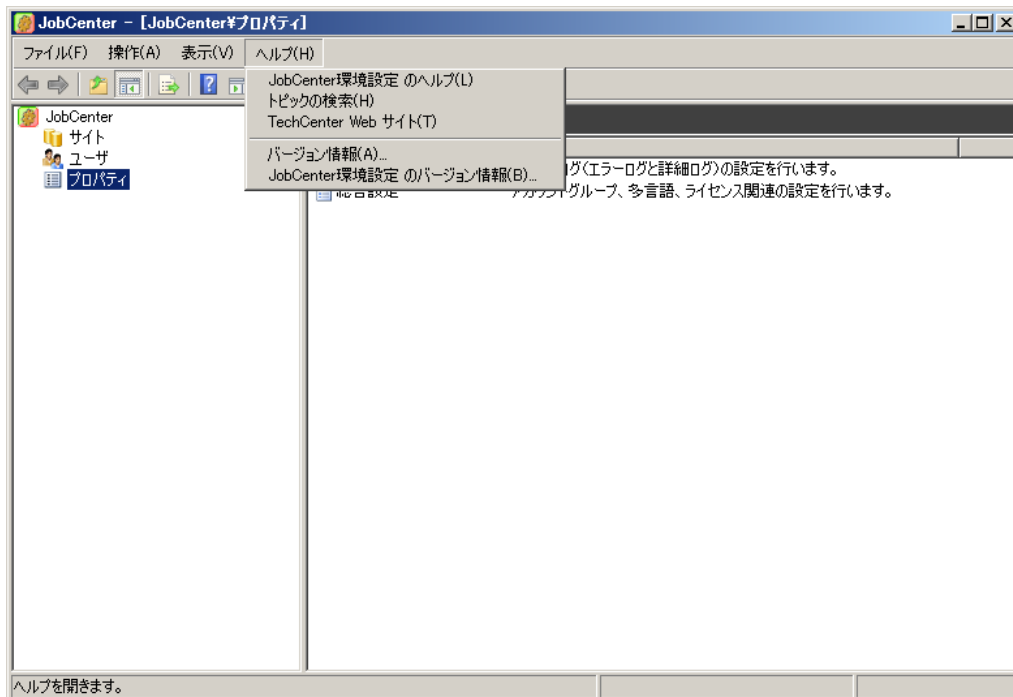


図6.1 バージョン情報選択画面

6.2.2. CL/Win

1. Windowsの [スタート] から [すべてのプログラム] – [JobCenter] – [Client] – [JobCenterクライアント] を実行します。
2. CL/Winのウィンドウが表示し、メニューバーから[ヘルプ] – [バージョン情報]を選択するとバージョン情報を確認することができます。

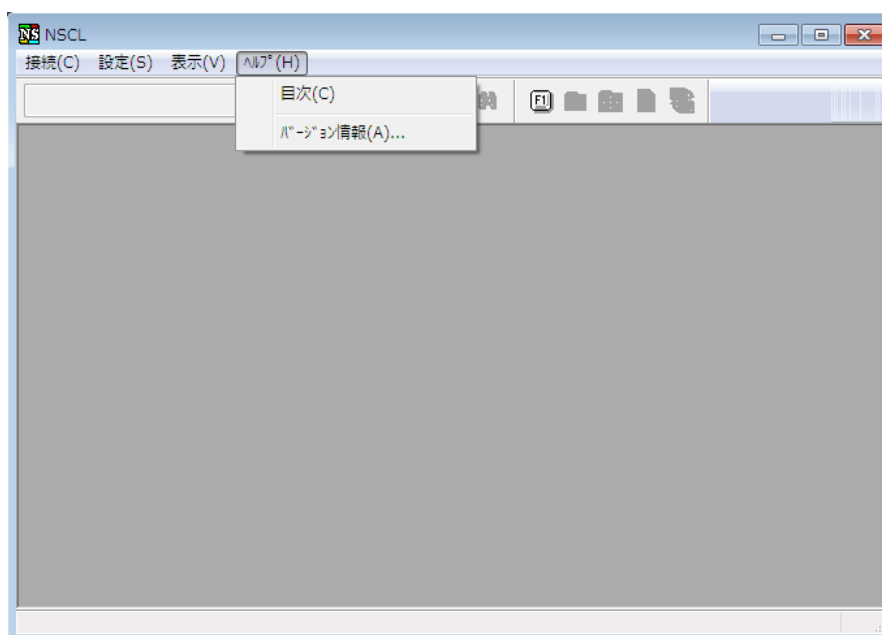


図6.2 バージョン情報選択画面

